

第2 地域振興計画等の推進状況

広域振興局毎の4つの地域振興計画は、①中期計画に掲げた各分野の基本目標の達成に向けて、それぞれの地域の実情に合わせて現地・現場で施策・事業を推進していくための中期計画の「実行計画」という側面、②各地域の特性や資源を最大限活かしつつ、府域全域で希望に輝く地域づくりを進めていくための地域独自の「成長戦略」という側面の2つを併せ持った計画となっている。

このため、本項では、はじめに、各地域振興計画に盛り込んだ数値目標全体の進捗状況を分析した上で、4つの地域振興計画毎に、今後の主な課題と重点施策の取組状況、関連指標の動きを取りまとめた。

次に、京都市域における主要施策・事業の実施状況や「みやこ構想」及び「3つの京都づくり」の推進状況を取りまとめた。

1 地域振興計画関連指標の動き

地域振興計画に掲げた各指標の「数値目標」は、別途目標年次を定めるものを除き、2019年3月までの達成をめざすものであり、目標年次に応じた年度毎の参考年間目標を設けることで、各年度の実績が最終的な数値目標の達成に向けて順調に推移しているかどうかを確認している。

各分野の指標について、数値目標及び参考年間目標の進捗が低調、あるいは後退している分野は、それぞれの要因を分析し、課題を明らかにした上で、進捗率を向上させる取組が重要となる（第1-1中期計画関連指標の動きと同様）。

(1) 数値目標の達成に向けて順調に進捗する指標

数値目標の達成に向けて順調に進捗する指標*

- 山城地域振興計画 71%
- 南丹地域振興計画 78%
- 中丹地域振興計画 53%
- 丹後地域振興計画 74%

※参考年間目標達成指標割合

今回の調査時点で、参考年間目標を達成した指標は、2019年3月までに達成をめざす最終的な数値目標の達成に向けて想定どおり又は想定以上のスピードで取組が順調に進捗していることを表し、達成に至らなかった指標は、現在の進捗度合いでは目標年次における数値目標の達成が難しいことを示している。各地域の状況は以下の表-3のとおりである。

◇表-3：数値目標の達成に向けて順調に進捗する指標の割合

分野	指標数	2015年(度) 実績値 計測指標数 a*	参考年間目標 達成指標数 b	参考年間目標 達成指標割合 b/a
山城地域振興計画	27	38	27	71%
南丹地域振興計画	27	27	21	78%
中丹地域振興計画	17	17	9	53%
丹後地域振興計画	20	19	14	74%
合計	91	101	71	70%

※の考え方については、P.4表-1の注意書きと同じ

(2) 数値目標の進捗状況

数値目標※を上回った指標

- ・ 山城地域振興計画 21%
- ・ 南丹地域振興計画 19%
- ・ 中丹地域振興計画 18%
- ・ 丹後地域振興計画 32%

※2019年3月までに達成をめざすもの

数値目標は、2019年3月までに達成をめざすものであり、計画期間（4年間）の1年目に当たる今回の調査時点において、既に数値目標を上回った（「減少」をめざす指標の場合は、数値目標を「下回った」）場合は、最終的な数値目標の達成に向けて想定以上のスピードで取組が進捗していることを示している。各地域の状況は以下の表－4のとおりである。

◇表－4：数値目標を上回った※¹指標の割合

分野	指標数	実績値 計測指標数 a ^{※2}	数値目標を 上回った 指標数 b	数値目標を 上回った 指標の割合 b/a
山城地域振興計画	27	38	8	21%
南丹地域振興計画	27	27	5	19%
中丹地域振興計画	17	17	3	18%
丹後地域振興計画	20	19	6	32%
合計	91	101	22	22%

※1及び※2の考え方については、P.6表－2の注意書きと同じ

2 地域別の主要な重点施策の実施状況等

地域別の主な課題・重点施策の取組状況は以下のとおり。

なお、山城・南丹・中丹・丹後の各地域振興計画について、数値目標の達成状況を示すとともに、基礎資料として、「統計データ」、「施策指標」を添付した。

京都市域については、同エリアで京都府が展開する主要施策・事業の実施状況を掲載した。

山城地域振興計画

(1) 今後の課題

今後の課題 1

木津川右岸地域（相楽東部地域等）の活性化

- 相楽東部3町村・広域連合と府広域振興局・関係部による「相楽東部未来づくり推進協議会」を設立し、新たな攻めの政策連携や3町村域を越えた広域連携により、3町村の圏域全体としての生活環境の向上と、農山村と都市が融合した新たなライフスタイルが実現できる理想郷を創造する取組を開始
- JR奈良線高速化・複線化第二期事業（2022年度完成予定）
- 国道163号北大河原バイパスの開通、宇治木屋線の事前着手準備調査の実施等のインフラ整備の促進によりアクセシビリティが向上
- 宇治木津線の事業化に向けた国土交通省の取組や、宇治田原山手線の事業化に向けた調査を開始
- 笠置町で、住民参加型組織「笠置まちづくり会社」の設立により、JR笠置駅舎や駅周辺のまちなみ整備、移住・定住等の取組を推進
- 南山城村と笠置町が三重県伊賀市との「定住自立圏」の形成に向けて、救急医療体制、広域観光、地域交通、子育て等の連携を図るため協定を締結予定
- 「府立和束青少年の家」が和束町へ譲渡され、幅広い層を対象とした滞在型観光拠点「京都和束荘」としてリニューアルオープン
- 木津川右岸・左岸の子育て交流による地域内の子育て支援や山城らしい出会いの場づくりの取組開始

【課題】

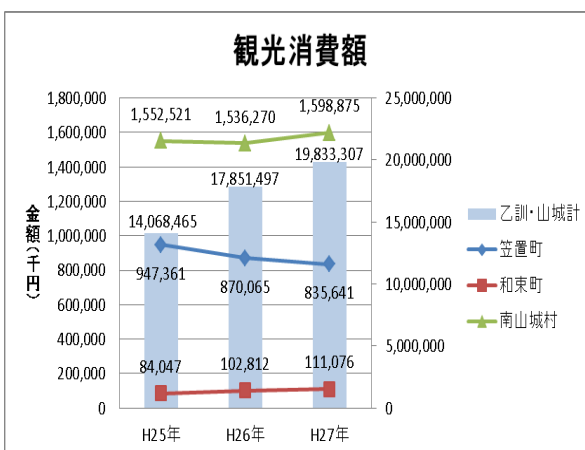
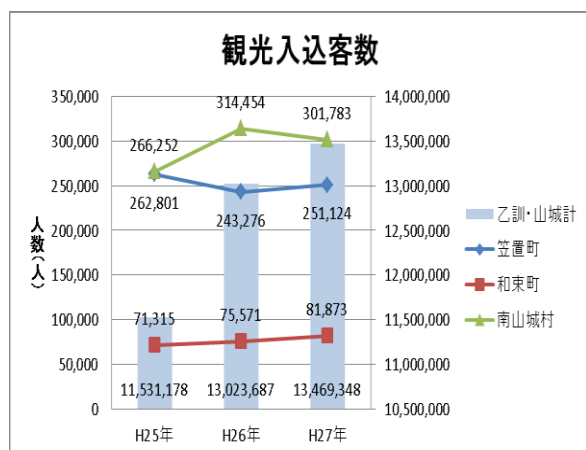
人口減少エリアから、新しい「豊かなライフスタイル」を創造・提供するエリアへの転換

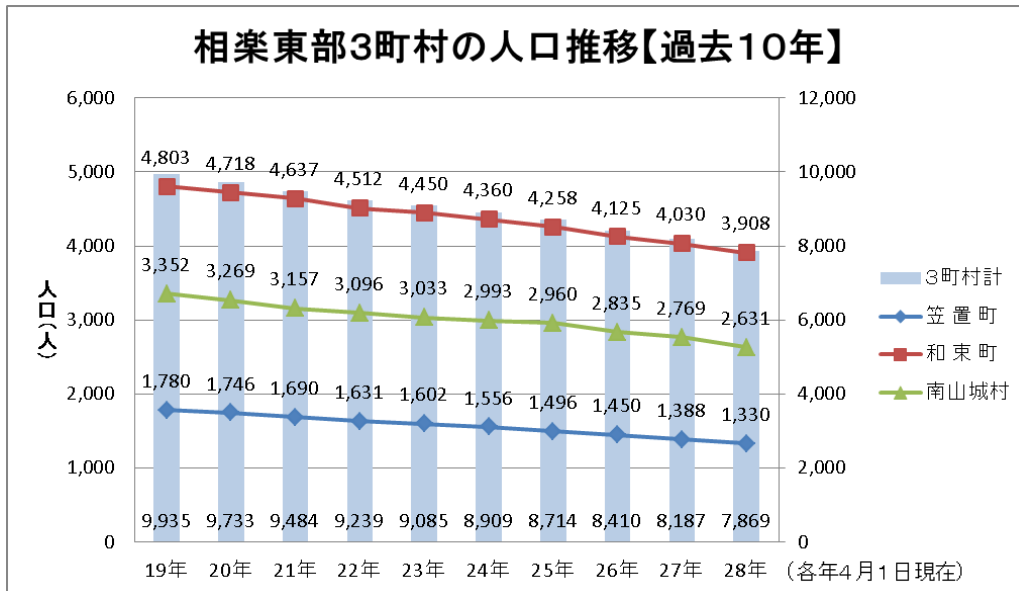
☆ 空き家バンク整備・農村体験提供や広域観光の推進などによる交流人口の拡大

☆ 子育て支援・高齢者支援や公共交通の整備・連携などによる定住対策

☆ 学研都市等との連携強化につながる諸施策

などを検討・展開

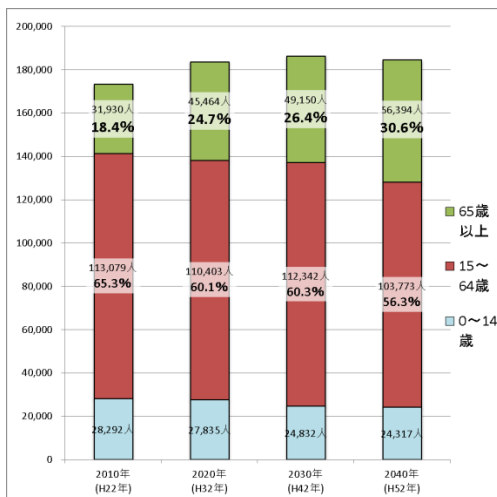




資料：京都府推計人口(企画統計課) ◆統計データ

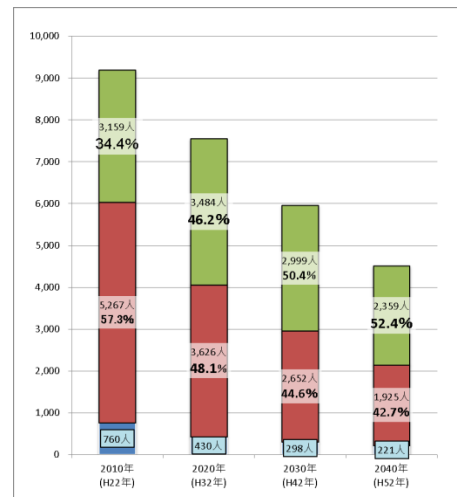
<学研地域(京田辺市・木津川市・精華町)の将来人口>

(対2010年比)
 2040年の高齢化率30.6% < 12.2ポイントの上昇>
 生産年齢人口割合56.3% < 9.0ポイントの減少>



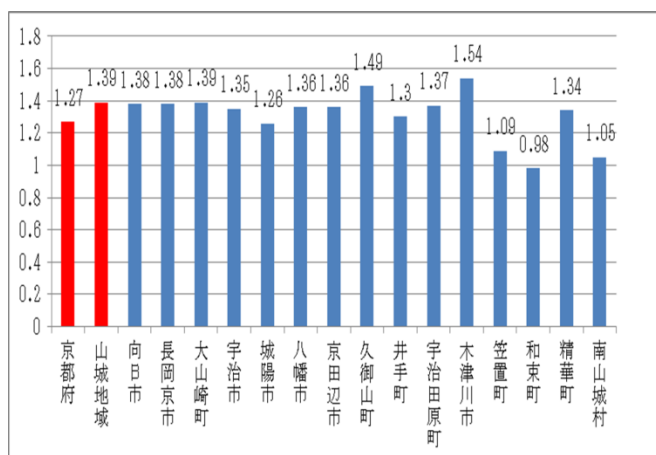
<相楽東部地域(笠置町・和東町・南山城村)の将来人口>

(対2010年比)
 2040年の高齢化率52.4% < 18ポイントの上昇>
 生産年齢人口割合42.7% < 14.6ポイントの減少>



資料：日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計) : 国立社会保障・人口問題研究所 ◆統計データ

合計特殊出生率(平成20年~24年の平均)



資料：厚生労働省 人口動態統計特殊報告 ◆統計データ

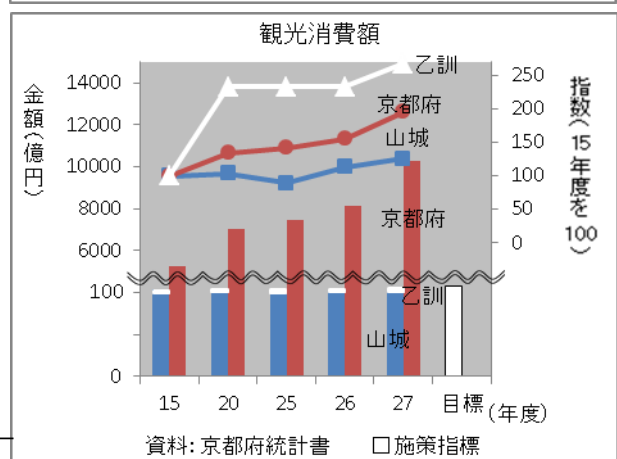
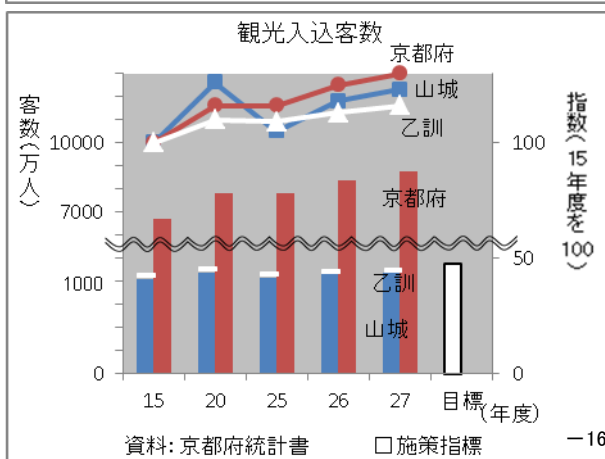
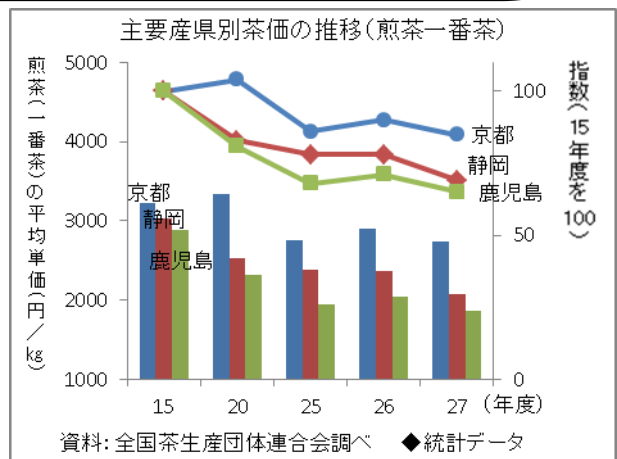
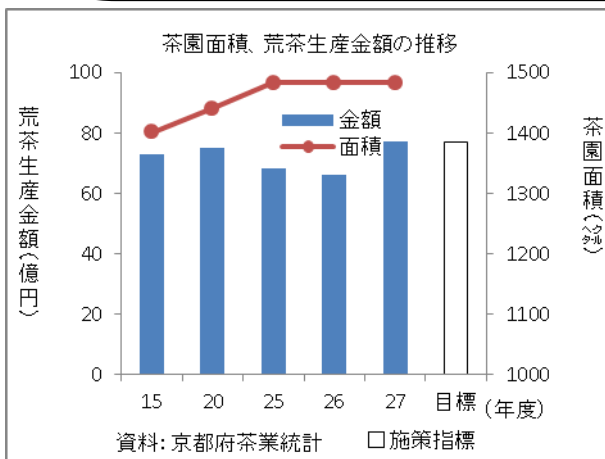
今後の課題 2

「お茶の京都」、「かぐや姫観光」等による地域の活性化

- 平成 28 年 4 月に、新たに 4 町にある文化財等が日本遺産「日本茶 800 年の歴史散歩～京都・山城」の構成文化財に認定され、「お茶の京都」エリア 12 市町村がそろう
- 流れ橋の復旧（平成 28 年 3 月）や、「京都やましろ茶いくるライン」整備（平成 28 年度から）が進められ、「お茶の京都」拠点施設や「日本遺産」の周遊がますます便利に
- 乙訓地域では「かぐや姫」をキーワードにマーケティング調査等を開始するなど「かぐや姫観光」を企画・推進
- 乙訓地域の市町長、商工会長、観光協会長、京都府による「乙訓地域の観光振興に関する意見交換会」を開催。「京都・かぐや姫観光推進協議会」を設置し、2 市 1 町が連携して観光振興を推進するための取組を開始

【課題】

- ☆ 「お茶の京都」エリア 12 市町村構成文化財の日本遺産認定を弾みに、世界に誇る日本の喫茶文化を育んできた「宇治茶」に関わる山城地域のさまざまな有形無形の資産の価値の発信が必要
- ☆ さらに、平成 29 年度の「お茶の京都」のターゲットイヤーや平成 32 年のオリンピックイヤーに向けて、「世界文化遺産登録」を視野に入れた「宇治茶」の普遍的な価値の世界への発信と、そのことにより多くの人々が訪れる大交流圏を創出し、地域の均衡ある発展を目指すことが重要
- ☆ 「お茶の京都」や「かぐや姫観光」を推進する DMO づくりを核とした広域観光等の展開



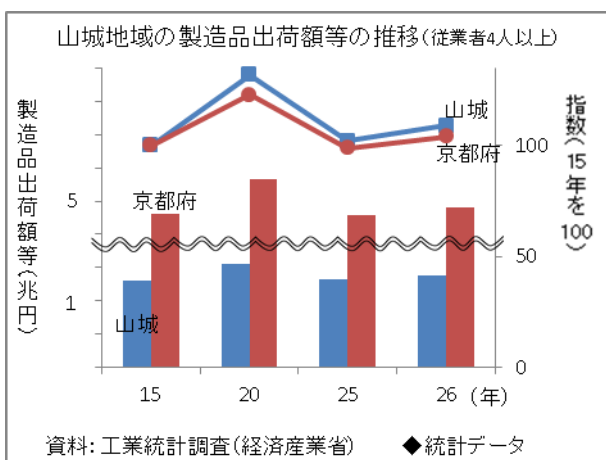
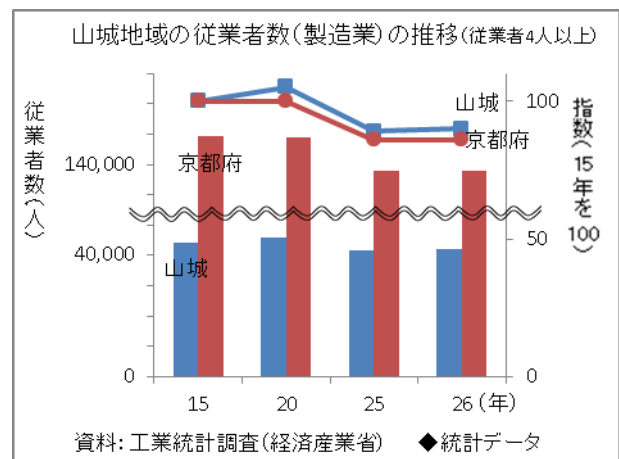
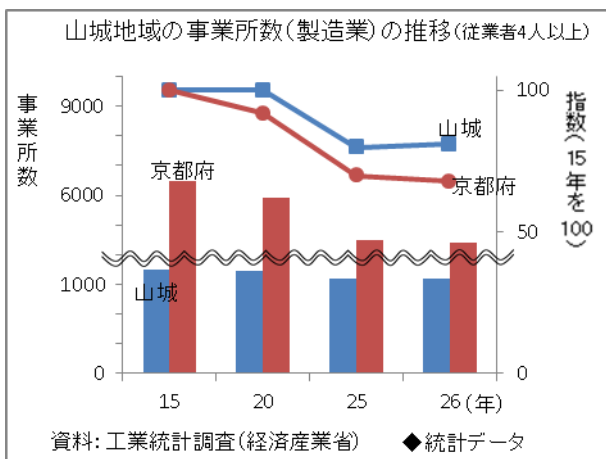
今後の課題 3

交流連携による産業イノベーションの創出と人材の確保

- 「城陽市東部丘陵地整備推進協議会」が設置され、今後の東部丘陵地の整備推進に弾み
- 「けいはんなオープンイノベーションセンター（KICK）」がスタートし、共同研究プロジェクト等の集積が進む

[課題]

- ☆ 京都市域から関西文化学術研究都市に至る地域と白坂（井手町）・城陽地域の企業との交流連携、地元中小企業と誘致企業との交流連携により、個々企業の成長・発展と産業イノベーションの創出を図ることが重要
- ☆ 加えて、学研都市等の未利用地の事業化の促進による、企業誘致の受け皿づくりを行うとともに、府内外から人材を確保し、立地企業の円滑な操業を支援することで、地域の活性化を図ることが重要



企業誘致の状況について（H13～27）

地域	企業数	シェア（①/②）
山城①	114	56%
京都府②	205	—

※企業数は立地表明を含む

資料：京都府調べ ◆統計データ

(2) 前年度の主な取組状況

基本方向 ■3つの京都、みやこ構想関係		平成27年度の主な取組と進捗状況
(1) 府民の暮らしを支える安心・安全の確保		<ul style="list-style-type: none"> ●河川・砂防施設等の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・古川の改修推進 ・H24、H25災害復旧事業の完成 ・弥陀次郎川天井区間の切り下げ完了及び赤田川の改修推進 ・下庄谷川及び不動谷川の砂防堰堤の整備推進 ●緊急時の道路交通機能の確保 <ul style="list-style-type: none"> ・国道163号「北大河原バイパス」、国道307号「奥山田バイパス」等の緊急輸送道路の整備推進 ●道路防災対策等の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・大津南郷宇治線、木津信楽線等の道路斜面の崩壊防止対策の推進 ・奈良加茂線「恭仁大橋」の耐震補強完成 ●適正な維持管理及び計画的な補修及び施設更新 <ul style="list-style-type: none"> ・天井川の補強工事の推進等 ●防災に係るソフト対策の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・土砂災害警戒区域等の指定 ・防災啓発パネル展の実施 ●農地・農業用施設の防災対策の推進(ため池点検(52箇所)、ため池安心・安全マップ作成(2地区)、マップ作成地区での緊急時訓練の実施(2地区)) ●宇治市炭山をモデルに、地域住民が主体となって行う、森林整備実践活動や防災訓練の他地域での取組支援(2地区) ●広域災害や感染症などの「健康危機」に即応できる体制づくり <ul style="list-style-type: none"> ・防災関係機関と医療関係機関の情報交換会等の実施 等
(2) 地域の活性化と交流を進める交通基盤など社会基盤整備の推進		<ul style="list-style-type: none"> ●高速道路へのアクセス道路の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・八幡インター線等の整備 ●JR奈良線高速化・複線化に合わせた関連道路の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・向島宇治線、上狛城陽線「玉水駅西交通広場」の整備推進等 ●まちづくりと一体となった道路整備 <ul style="list-style-type: none"> ・(都)新宇治淀線の整備推進 ・西京高槻線「物集女第2工区」、(都)御陵山崎線「第3工区」の事業着手 ・上久世石見上里線の整備推進 ・(都)山手幹線「宮津・菱田工区」等の整備推進 ●生活道路の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・伏見柳谷高槻線、和東井手線等の整備推進
(3) お茶の京都等による、農林業や中小企業など地域を支える産業振興と新たな観光、地域交流の推進	■「宇治茶の郷づくり」とお茶の魅力の発信	<p>「お茶の京都」づくりを目指して、次の2つの取組を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ●宇治茶ファンを広げ、消費の拡大を図るとともに、日本遺産認定を契機に、世界文化遺産登録の取組と連携して宇治茶の価値・魅力を発信 <ul style="list-style-type: none"> ・急須でお茶を淹れ、もてなす文化を復活・継承するため、「宇治茶ムリエ」を育成(1,000人) ・将来の宇治茶ファン育成(キッズ茶ムリエ4回)や山城各地で「Uji-CHA Fair」を開催(参加者13万人) ・ミラノ博覧会において、宇治茶の輸出に向けた商談会等を行う取組を支援(商談会10回) ●持続可能な茶業経営の確立を図るため、香り高い宇治茶の生産振興 <ul style="list-style-type: none"> ・安心・安全な宇治茶生産を推進するGAP手法を広く農家へ普及(実践農家率50→67%) ・抹茶スイーツなどの需要に対応するため、てん茶工場や集出荷施設の整備を支援 ・担い手の育成確保のため、急峻な茶園の改良工事に向けた準備(実施設計書を作成)
	■「やましろ観光」の推進	<p>日本遺産認定を契機に地域の観光資源の魅力を高め、発信する施策を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ●観光入込客数1,347万人(対前年103%)、観光消費額198億円(対前年111%) ●「Uji-CHA Fair」を起点に、モデルツアーを実施(13回) ●スイーツファン等をターゲットにスイーツスタンプラリー等周遊型イベントを実施(参加者400人) ●お茶所バスに京都やましろ観光大使「横山由依」の写真をラッピングして運行(31回)
	中小企業への支援と企業誘致、雇用対策の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●「京都版エコノミックガーデニングの観点から」きめ細かな訪問活動や支援活動の実施(企業訪問4,166社) ●プレミアム商品券発行支援(17商店街)、イノベーションによる知事認定企業を支援(32社) ●「京都やましろ企業オンリーワン倶楽部」等を通じた活動等により、企業間及び産学官連携を一層推進(累計104社) ●市町村と連携した企業誘致の促進(誘致企業数23社) ●地域の実情に応じた雇用対策の推進(雇用創出数544人)
	特色ある農産物づくりと担い手対策の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●九条ネギ集出荷貯蔵施設の新設や京やましろ新鮮野菜の販売促進によるブランド力の強化を支援(販売額 11億円(対前年600%)) ●「やましろ農産物直売所ネットワーク」の取組を支援し、魅力ある直売所づくりを推進(直売所フェア、食品表示リーダーの設置)(販売額 11億円:4年連続10億円突破) ●「やましろ野菜産地担い手養成塾(5講座)」や「やましろ担い手農家養成インターンシップ」(1講座)等を開催し、担い手を確保・育成(新規20人)
	豊かな森と里づくり	<ul style="list-style-type: none"> ●モデルフォレスト運動の推進を目指し、企業、森林ボランティア、地区住民等が役割分担し、森林整備活動を支援(延べ参加者1,275名) ●特色ある農村ビジネスを目指す明日の京都村づくりを推進(南山城村、商品開発25品目)や農家民宿開設支援(2戸)し、定住者数を確保(29人) ●地域産木材の利用促進のため、公共建築等での利用を促進(2件) ●二ホンザル農作物被害軽減のため、追い払い等住民が一体となった取組(4集落)や個体数管理(捕獲数61頭)を進め、6年連続減少(被害金額 26百万円→18百万円)

基本方向 ■3つの京都、みやこ構想関係		平成27年度の主な取組と進捗状況
(4) 少子・高齢化への戦略的対応と生涯健康づくり	少子化への戦略的対応	<ul style="list-style-type: none"> ●高校生、大学生の若者が、結婚、妊娠、出産、子育ての人生の節目に適切な選択ができるように正確な情報を提供 健康出前講座・セミナー(5回)、従事者研修会(7回)、思春期パネルディスカッション(1回) ●妊産婦の不安や負担を少しでも軽減するため、市町村や地域の子育て団体と協力した支援の仕組みづくり 子育て支援団体の少ない市町へ、ケア専門員・訪問支援員を広域的に派遣実施(3町)。ネットワーク会議・研修会(5回)。支援方法手引き作成。
	だれもが安心して生活できる環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ●障害者の企業就職を支援、毎年の目標を達成 (就職者数 2015年度126人、2014年度124人、2013年度138人、2012年度110人、2011年度106人) ●障害者の手作り製品を販売する12か所の常設店の開設を支援、目標達成、さらなる増設をめざす。
	高齢者がいきいきと安心して暮らせる地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ●医療・介護・福祉の連携強化を推進 <ol style="list-style-type: none"> ①地域包括ケア体制の整備 ・保健所ごとの市町村協議会等の開催 ②認知症初期対応型カフェの整備 ③認知症高齢者SOSネットワークの構築 ④オレンジロードつなげ隊による認知症啓発事業の実施 ⑤在宅医療の充実 ・多職種が参画する会議等の開催により連携を推進
	生涯を通じた健康づくり	<ul style="list-style-type: none"> ●事業所や市町村・女性グループとの協働によるがん検診受診啓発事業を実施。(健康セミナー1回、健康出前講座17回、検診受診促進クチコミ隊養成 新たに45名・総数149名) ●食物アレルギー対応研修会(9回) ●思春期健康出前講座(防煙・エイズ・がん)23回(小学3校、中学11校、高校6校、大学3校)
(5) 地域文化の継承・発展と環境保全、郷土を愛し、世界にはばたく子どもの育成	文化・スポーツや環境の継承・創造	<ul style="list-style-type: none"> ●2020年東京オリンピック・パラリンピック開催に合わせた「京都文化カプロジェクト2016-2020」に向けた機運を盛り上げるため、管内の文化イベントを「やましろ文化祭」として冊子やHPで紹介し、18.6万人が参加。 ●地域の文化力をさらに発展させ、「京都文化カプロジェクト2016-2020」に向けた機運を盛り上げるため、「やましろのタカラフェスティバル」等を開催。3,500人の参加者が、文化や科学、地域活動に触れる機会を創出。 ●大規模排出事業者からの温室効果ガスの排出抑制 大規模排出事業者への温室効果ガスの排出削減指導 3事業所
	郷土を愛し、世界にはばたく子どもの育成	<ul style="list-style-type: none"> ●科学好き・ものづくり好きの子どもの育成事業で、事業参加者が定着 ●山城地域の歴史や文化・産業などの学習を推進し、全小中学校で取組済み ●親への学習機会の提供や家庭教育支援に携わる人材の養成
地域特性をいかした施策の展開	■乙訓地域 (京都乙訓ダイナミックシティーズ構想)	<ul style="list-style-type: none"> ●乙訓かぐや姫観光の実施(竹に関連したプレミアムツアーの造成など) ●乙訓にぎわい発信事業の実施(ポータルサイトの設置運営、「もうひとつの京都」との連携 など) ●多様な地産地消対策の推進(ふるさと軽トラ市の開催など) ●乙訓「若竹」産業創造プロジェクトの推進(竹資源の活用研究など)

(3) 数値目標に対する施策指標の進捗状況

施策指標	進捗率 (%)	進捗率グラフ				
		0%	25%	50%	75%	100%
地域振興計画						
山城						
1 災害関連河川の改修率(弥陀次郎川)	100.0					
2 災害関連河川の改修率(戦川)	0.0					
3 災害関連河川の改修率(志津川)	100.0					
4 災害関連河川の改修率(古川)	0.0					
5 災害関連河川の改修率(赤田川)	0.0					
6 新名神高速道路のICへのアクセス関連(八幡インター線)	42.9					
7 JR奈良線の高速化・複線化関連(新宇治淀線)	54.5					
8 JR奈良線の高速化・複線化関連(向島宇治線「宇治街道踏切立体交差」)	3.4					
9 JR奈良線の高速化・複線化関連(京都宇治線「黄檗門前踏切付近」)	31.8					
10 JR奈良線の高速化・複線化関連(上狛城陽線「玉水駅」)	12.3					
11 「宇治茶GAP」実践農家率	75.8					
12 急峻(しゅん)な茶園の改修面積(延べ)	—					
13 荒茶生産額	100.0					
14 観光入込客数	33.6					
15 観光消費額	41.0					
16 観光客の一人当たり消費額	66.0					
17 企業訪問活動を強化し、企業づくりのサポートを実施(年間)	16.7					
18 経営革新やステップアップに取り組む企業をサポートし、中小企業応援条例に基づく「元気印」や「知恵の経営」等の認定企業数を拡大(年間)	275.0					
19 京やましろ新鮮野菜の年間販売額	420.0					
20 ブランド京野菜の年間販売額	500.0					
21 農産物直売所の販売金額	6.7					
22 農業における新規就農・就業者数(年間)	6.3					
23 農山村へ移住した都市住民等の人数	150.0					
24 ニホンザルによる農作物被害金額の半減	57.8					
25 府民、企業、団体、NPO、大学等が連携して森林づくりに取り組むモデルフォレスト運動への延べ参加者数	38.2					
26 出生数増	-4.2					
27 保育所待機児童数	-372.7					
28 児童虐待未然防止に関する協力医療機関(産科病院・診療所)の数	80.0					
29 障害者支援事業所が生産する農産物の納入福祉施設の数	100.0					
30 山城地域の認知症カフェ設置市町村数	62.5					

施策指標	進捗率 (%)	進捗率グラフ				
		0%	25%	50%	75%	100%
31 地域力再生プロジェクト支援事業交付金で支援する高齢者に対する共助型福祉の取組(延べ)	20.0					
32 がん検診を受診する人の割合(胃がん)	29.1					
33 がん検診を受診する人の割合(肺がん)	20.2					
34 がん検診を受診する人の割合(大腸がん)	38.9					
35 がん検診を受診する人の割合(乳がん)	12.5					
36 がん検診を受診する人の割合(子宮がん)	11.4					
37 大規模排出事業者の温室効果ガス排出削減率	—					
38 山城地域で実施される各種文化事業への参加者数	20.0					
39 子育て・親育ち講座等の参加人数	26.9					

※ 基準値からの増減を目標とする指標等進捗率が表せない指標については、進捗率欄及び進捗率グラフ欄は「—」としている。

(4) 前年度の課題に対する対応状況

ベンチマークレポート [2015年10月] の「今後の課題」について、平成27年度2月補正予算及び28年度当初予算で計上した主な事業は次のとおり

① 山城地域振興計画

今後の課題	主な事業等
「お茶の京都」等による、農林業や中小企業など地域を支える産業振興と新たな観光、地域交流の推進	
「お茶の京都」づくりによる地域の活性化	
◇「日本茶800年の歴史散歩」の日本遺産認定を契機に、世界に誇る日本の喫茶文化を育んできた「宇治茶」に関わる山城地域のさまざまな有形無形の資産の価値の再認識が必要	<input type="checkbox"/> 「京都やましろ茶いくるライン（仮称）」整備事業 <input type="checkbox"/> Uji-CHA Fair実施事業 <input type="checkbox"/> 「宇治茶の郷づくり」の推進 <input type="checkbox"/> 新しい山城観光の魅力実感事業 <input type="checkbox"/> 山城広域観光推進事業
◇平成29年度の「お茶の京都」ターゲットイヤーや平成32年度のオリンピックイヤーに向けて、「世界文化遺産登録」を視野に入れた「宇治茶」の普遍的な価値の世界への発信と、そのことにより多くの人々が訪れる大交流圏を創出し、地域の均衡ある発展を目指すことが重要	
交流連携による産業イノベーションの創出と雇用の拡大	
◇京都市域から関西文化学術研究都市に至る地域と白坂（井手町）・城陽地域の企業との交流連携、地元中小企業と地域企業との交流連携により、個々企業の成長・発展と産業イノベーションの創出に加え、地元雇用の拡大を図ることが重要	<input type="checkbox"/> 「やましろ つぎ(継・次)活」プロジェクト

少子・高齢化への戦略的対応と生涯健康づくり

戦略的・総合的な少子化対策～社会増促進のために～

◇山城地域における人口減少を食い止めるため、思春期から結婚、出産、子育てに至るライフステージの各段階に応じた総合的な支援の仕組みづくりが必要

◇若者の山城地域への定住を促進するため、さまざまな働き方に対応する安定した雇用の場を確保するとともに、地域の資源を生かした魅力あるまちづくりをすすめることが必要

□ライフデザインの実現応援のやましる事業

- ①若年層への健康出前講座
- ②山城らしい出会いの場づくり・異業種交流

□産前産後の母子の伴走支援山城モデル構築事業

- ①「妊娠からはじまる子育てフォーラム」の開催（7/8）
- ②広域的支援システムの推進
- ③ハイリスク妊産婦支援システムの構築

□相楽東部総合活性化事業

南丹地域振興計画

(1) 今後の課題

今後の課題 1

地域資源（たから）を活かした「森の京都」づくり

- 京都丹波地域への観光入込客数（2015年）は、京都第二外環状道路、京都縦貫自動車道全線開通などの効果により、前年度より118万人増の717万人となったが、観光客一人あたり消費額は1,650円にとどまっている。
- 小中学生等があらひのままの農業・農村を体験する教育体験旅行の受入人数（2015年）は受入農家数の拡大や高速道路網整備によるアクセス向上等により、前年度比1.3倍の2,501名まで増加。また、農家民宿の開設数も教育体験旅行受入農家への個別相談会や農家民宿開設セミナーの実施等により、前年度より6軒増加し、累計18軒となっている。
- 地域産木材のうち、管内で製材加工される木材の量（2015年）は、製材加工施設の新設などの増強と、各森林組合や生産者組織、木材市場、行政等による利用拡大の普及活動などの効果により、前年度比1.4倍の15千 m^3 となった。

[課題]

☆森の京都DMOによる交流人口拡大の加速化

2017以降のポスト森の京都博を見据えた取組として、新たに設立される森の京都DMOを中心とした交流人口拡大の加速化と、これを経済波及効果に結びつけ、「地域の稼ぐ力」を強化することが必要

☆教育体験旅行受入態勢の強化

修学旅行などのニーズが拡大している教育体験旅行では、受入活動を行っている「京都丹波・食と森の交流協議会」を核に中丹地域も含めた受入農家の拡大や質の向上を図るとともに、森の京都DMO、食と森の交流協議会、受入地域・農家の効率的な役割分担、体制づくりが必要

☆丹波広域基幹林道を活用した原木の生産量拡大等の推進

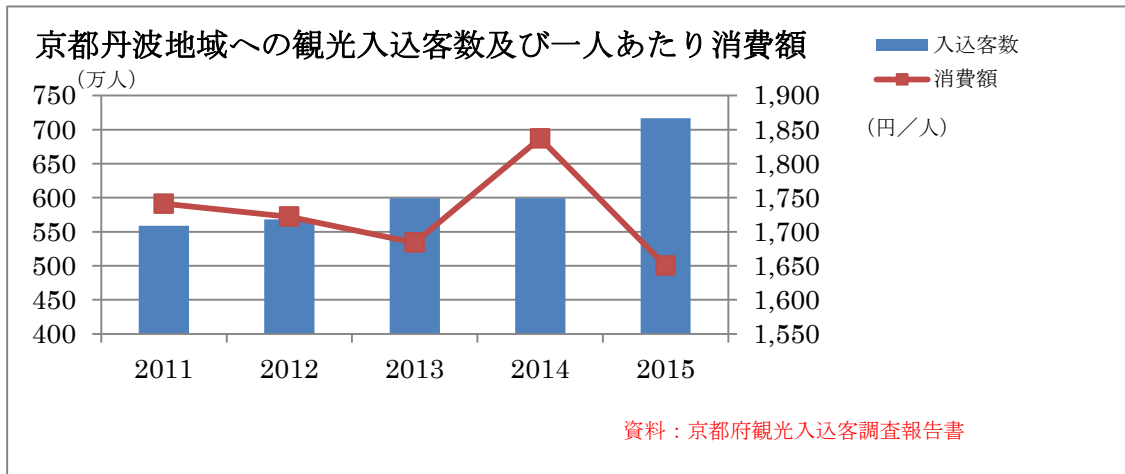
2014には管内を東西に横断する丹波広域基幹林道（延長65km）が完成したが、これを活用した原木の生産量拡大や安定供給などを推進していくためには、最新の地上レーザー測量等による高精度な森林資源情報に基づいた新たな「森林経営計画」の策定促進等が必要

- 京都スタジアム（仮称）の建設や京都トレーニングセンターの整備等、新たなスポーツ交流基盤の整備が進むとともに、トライアスロン、ロードレース、マラソン等全国規模のスポーツ大会を開催

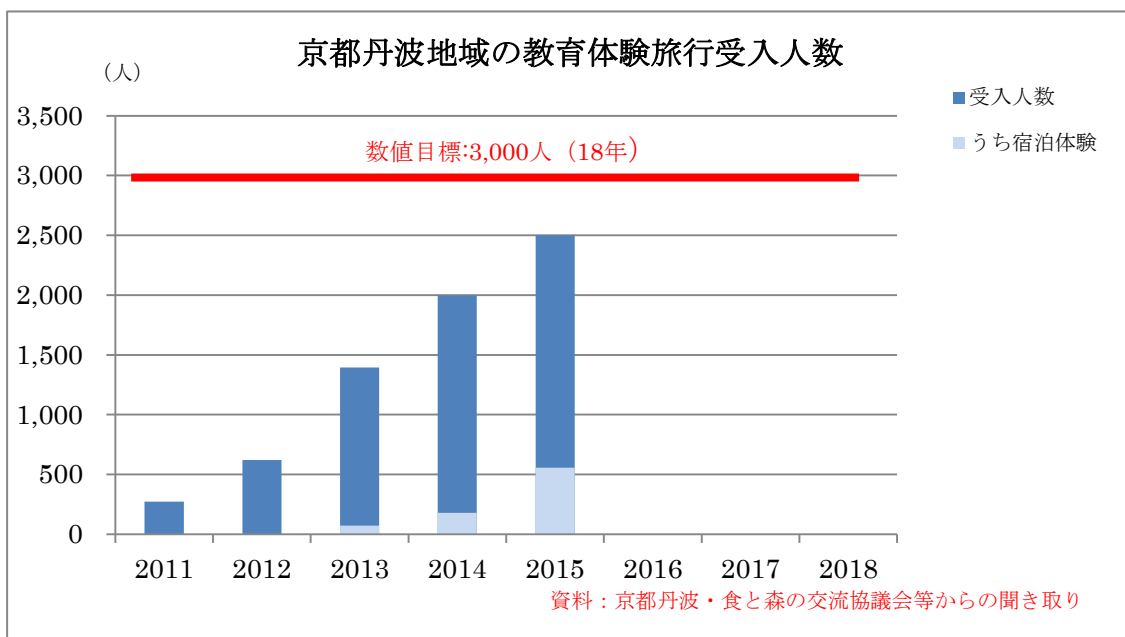
[課題]

☆地域資源を活用したスポーツ観光の推進

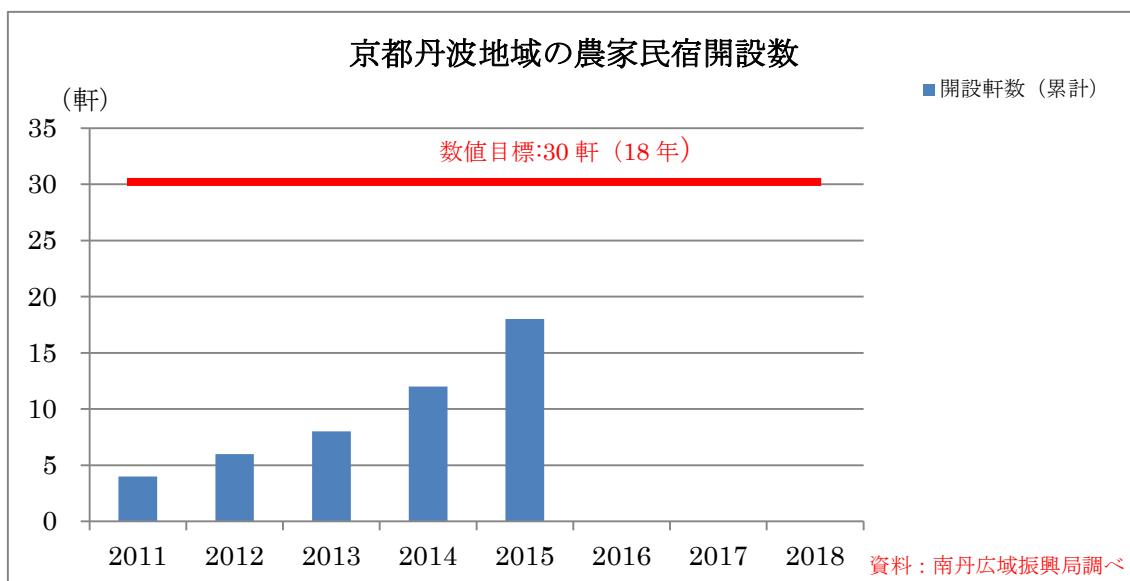
京都スタジアム（仮称）の建設や京都トレーニングセンターの整備等、交流基盤の整備が進む中、豊かな自然環境と食、アウトドアスポーツ等スポーツ振興を結びつけ、地域の観光ビジネスにつなげることが必要



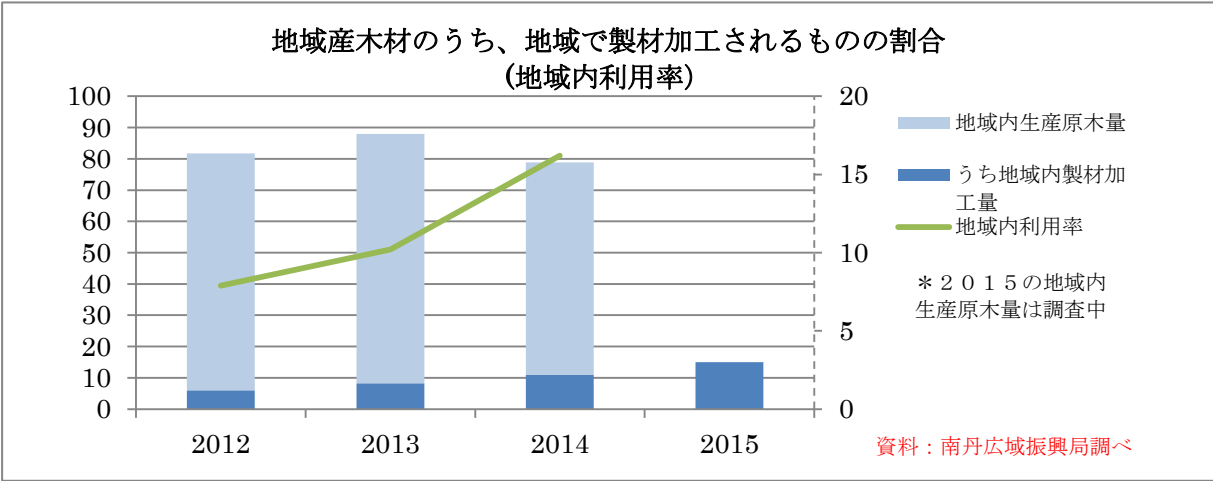
□施策指標



□施策指標



□施策指標



◆統計データ

今後の課題 2

災害に強い安心・安全のまちづくり

- 管内には438のため池があり、うち51池が防災重点ため池となっている。安心・安全な地域づくりを進めるため、計画的に防災重点ため池の整備を実施している。

※防災重点ため池：次のいずれかに該当するもの

- ・ 決壊した場合に人家や病院、学校などの重要な公共施設へ影響を与えるおそれがあるもの
- ・ 堤高1.5m以上で下流の農地・農業用施設などに多大な影響を与えるおそれがあるもの

[課題]

☆危険ため池の整備やハザードマップの作成等によるため池災害の未然防止

ため池災害などを未然に防止するためには、危険ため池の整備を着実に実施するとともに、市町、自治会を通じた地域ぐるみのため池ハザードマップの作成等により地域の防災意識の向上を図ることが重要

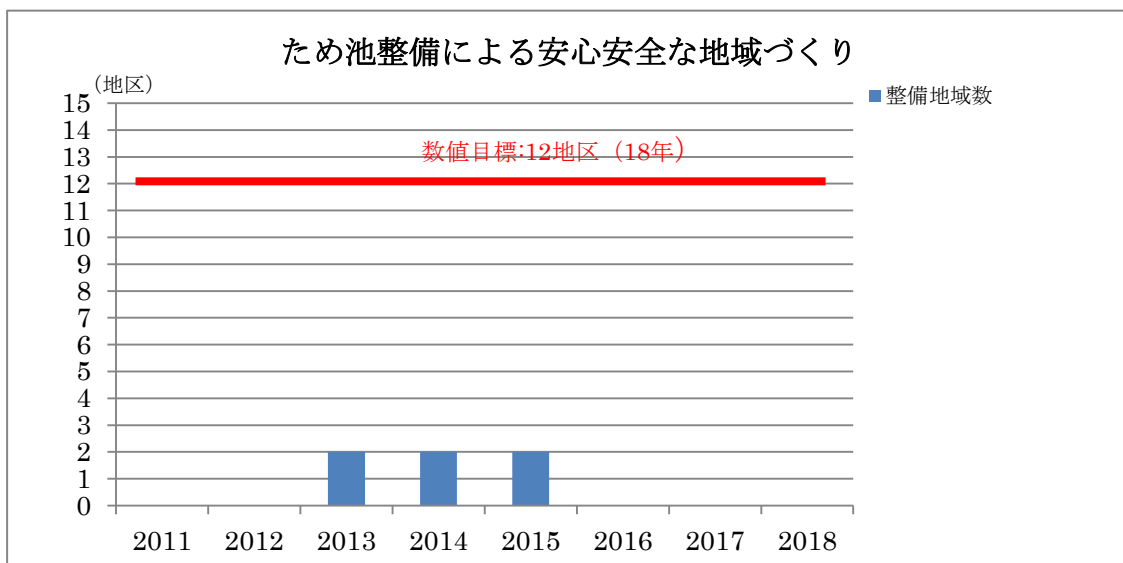
- 本管内は平成25年、26年の台風襲来による甚大な被害を経験。(昨年度、2箇年の公共土木施設災害は概ね復旧完了。)今年度、81%の土砂災害警戒区域指定率を100%とすることを目指す。

この様な状況の中、本年4月に発生した熊本地震で改めて地震災害の大きさを実感。管内府民の防災・減災に対する関心はますます高まる。

[課題]

☆様々な視点による災害に強い安心・安全のまちづくり推進

さらなる災害に強い安心・安全のまちづくりを進めるには、ハード対策とソフト対策、自助・共助・公助、短期・中期・長期 等の様々な視点での取り組みが重要



□ 施策指標

移住・定住・交流の促進

- 管内の農山漁村へ移住した都市住民等の人数（2015年：累計）は、京都移住コンシェルジュや市町・地域・既移住者と連携したセミナー開催や空き家改修などの支援制度により、前年度の2倍以上となる23名となった。
- 都市住民の田園回帰（田舎暮らし）志向は強まっている傾向があり、京都移住コンシェルジュ等への移住・定住相談者数は2014年から大幅に増加し、2015年は前年度の2倍以上となる1,180名となった。
- 2016年の4月に「京都府移住の促進のための空き家及び耕作放棄地条例」（移住促進条例）が施行。移住者のネットワークづくりや移住に興味がある者へのセミナー・地元企業説明会等を進めるため、4月に市町の担当課、移住コンシェルジュ、振興局で「移住定住連絡会議」を設置

[課題]

☆京都移住コンシェルジュへの情報の一元化等による移住推進体制の整備

移住支援には、「しごと」、「子育て・教育」、「すまい」の環境整備が重要であり、関係機関の情報を一元的に取りまとめ、「京都移住コンシェルジュ」につなぐとともに、移住促進条例による税・補助金・利子補給によるパッケージ支援の活用、企業立地や立地企業の工場増設等による雇用の場の確保、企業の雇用活動と連動させた移住誘致など、様々な関係者によるオール南丹の体制整備を図り、「意外と近い」京都丹波への移住を加速的に進めることが必要

- 平成27年度に京都縦貫自動車道全線開通、また、平成28年度に京都府の北部と南部が高速道路で繋がり、国土幹線軸と繋がった京都府域の南北交流幹線軸が形成される。

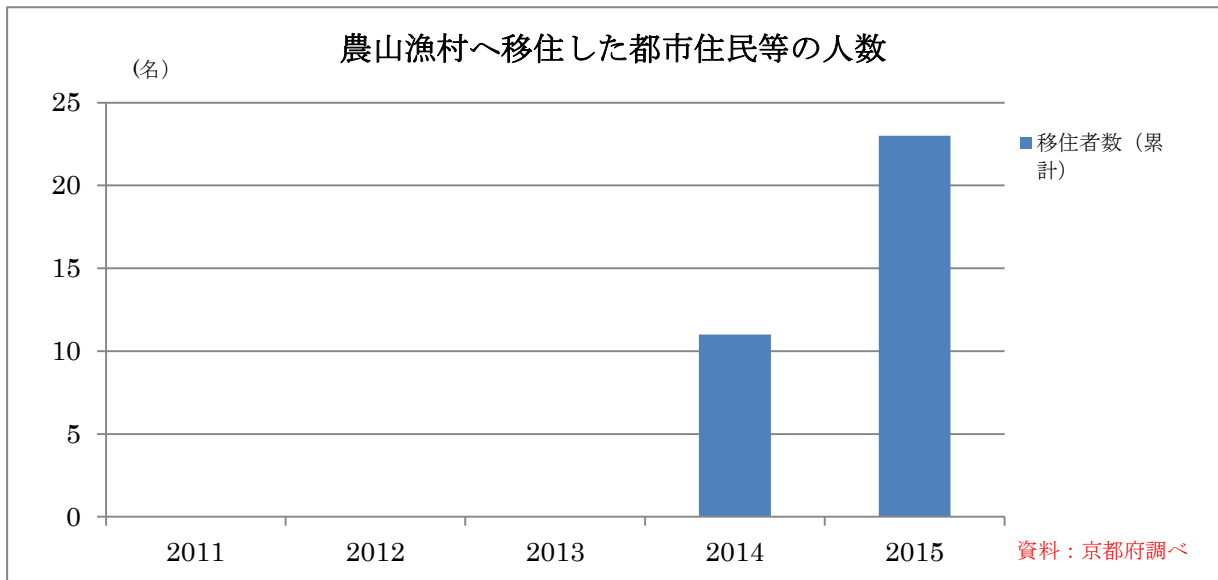
[課題]

☆インバウンド、観光リピーター、雇用の増加に繋がる社会資本整備

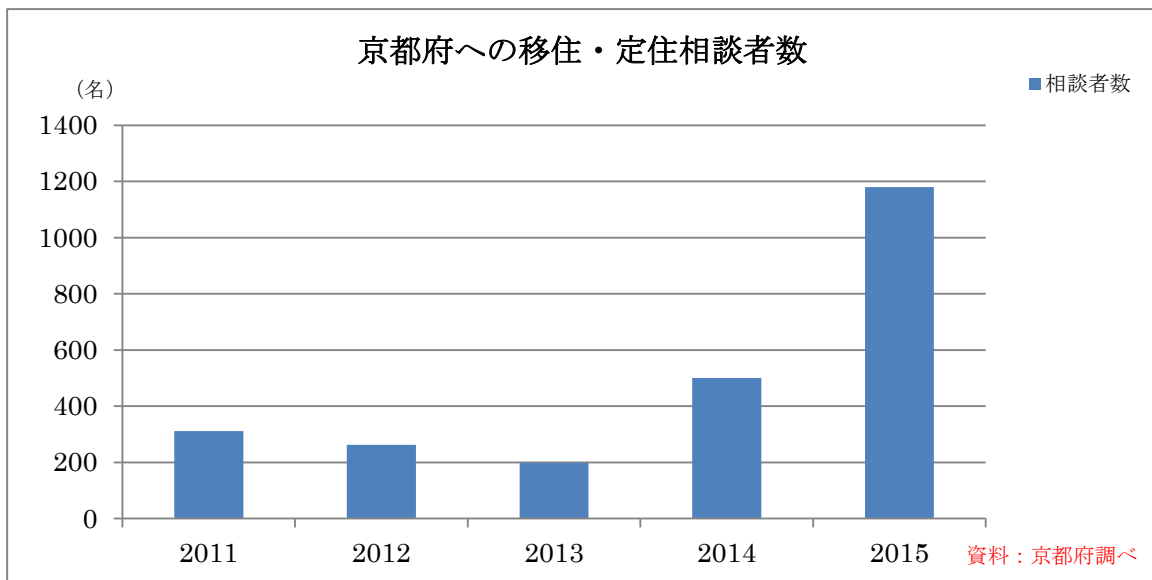
管内での国土幹線軸と繋がった幹線道路網の形成はチャンスであり地域間競争の始まりでもあるとの認識の下、移住・定住・交流の促進を図るためには、インバウンド、観光リピーター、雇用の増加に繋がる社会資本整備が重要で、大交流、管内交流、生活圏交流、まちづくりとの連携の4つの視点が重要

大交流・管内交流・生活圏交流の整備で人と物を安全・安心でスムーズな移動となる取り組みを行う必要あり。

- ・大交流は、京都縦貫自動車道（南北交流幹線軸）と繋がり阪神地区との交流強化（新名神開通も視野）となる東西幹線軸の道路整備
- ・管内交流は、魅力ある「森の京都」戦略拠点などの、地域振興、観光振興の拠点へのアクセス向上整備→車移動による生活圏拡大
- ・生活圏交流は、人家連担地、通学路、JR各駅周辺等でのバリアフリー等歩行者目線の道路整備→安心で安全な住環境
- ・まちづくりとの連携は、都市計画道路整備や基盤整備（区画整理・圃場整備事業）、にぎわい拠点のアクセス向上等地域振興と連携した道路や河川整備



□ 施策指標



◆ 統計データ

今後の課題 4

健康・長寿のまちづくり ～健康・長寿ナンバーワン～

- 管内北部地域（南丹市・京丹波町）では高齢化が既に進展し、亀岡市でも団塊の世代の高齢化に伴う急速な高齢化が予想され、管内の第1号被保険者の要介護（要支援）認定者数及び認定率は年々増加し、南丹市や京丹波町では府の平均認定率より高い。
- 管内の疾病傾向は「高血圧」「糖尿病」「脂質異常症」による疾患が高くなっている。
- 管内の全小学校でフッ化物洗口の実施等により、子どものむし歯本数は減少傾向にあり、児童の歯の状態は全国・府よりも良好な状態にあるが、80歳以上の残存歯数は管内平均9.7本で、全国13.9本・府11.3本を下回っている。

[課題]

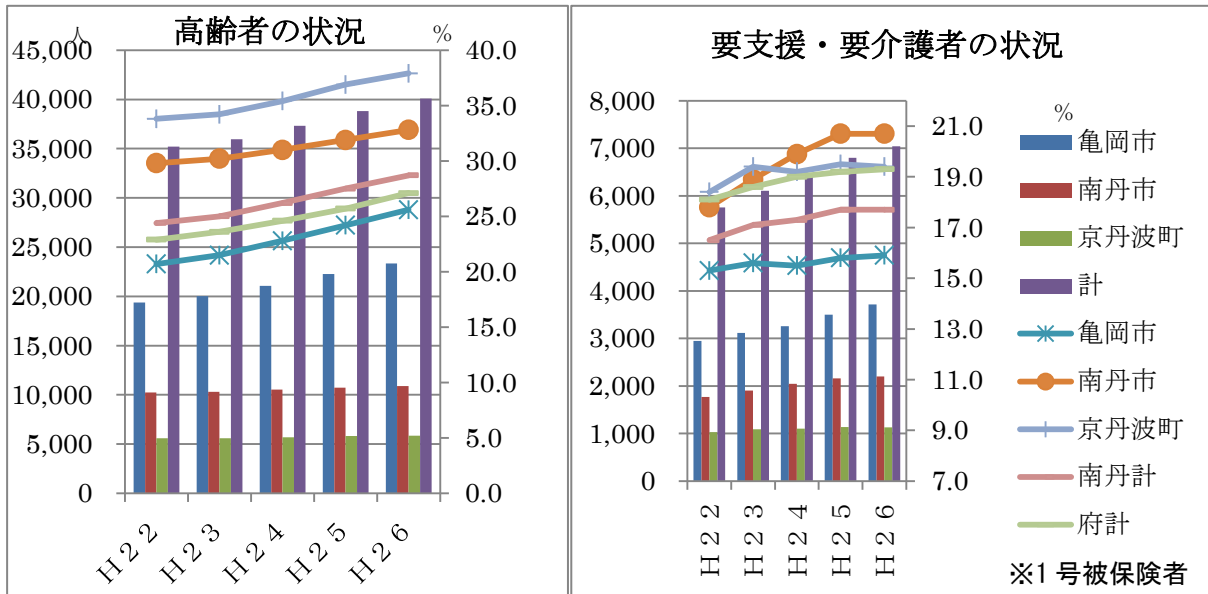
☆ 生活習慣病の発症及び重症化予防の推進

- ・ 管内の野菜摂取量は、266.5g/日と平成10年度と比べ減少しており、全国平均(277.4g/日)より少なく、目標の350g/日にも届いていない。生活習慣病予防の観点から「適切な量と質の食事」を選択して摂取できる環境の整備が重要である。
また、健全な歯は咀嚼力を高め摂食・嚥下をスムーズにし、活動的な日常生活と社会参加を促すことにつながるため、高齢期の歯科対策も今後重要となる。
- ・ 「きょうと健康長寿京都丹波地域府民会議（公正団体54）」を中心に、市町や関係団体と連携しながら、府民運動として健康づくり事業を展開。
- ・ さらに、生活習慣病の予防効果が期待できる野菜摂取量を増やすため、地場野菜などの地域食材を活用した地域ぐるみの食育の推進が必要である。
- ・ 働き盛りの健康づくりとして、「地域・職域会議」を開催するとともに、社員食堂を持つ事業所に対して、地元産野菜等を活用したヘルシーメニューの昼食の提供や健康講座の実施等、社食を通じた健康管理の実践につながる取組を進めている。

☆ 高齢者の介護予防の推進

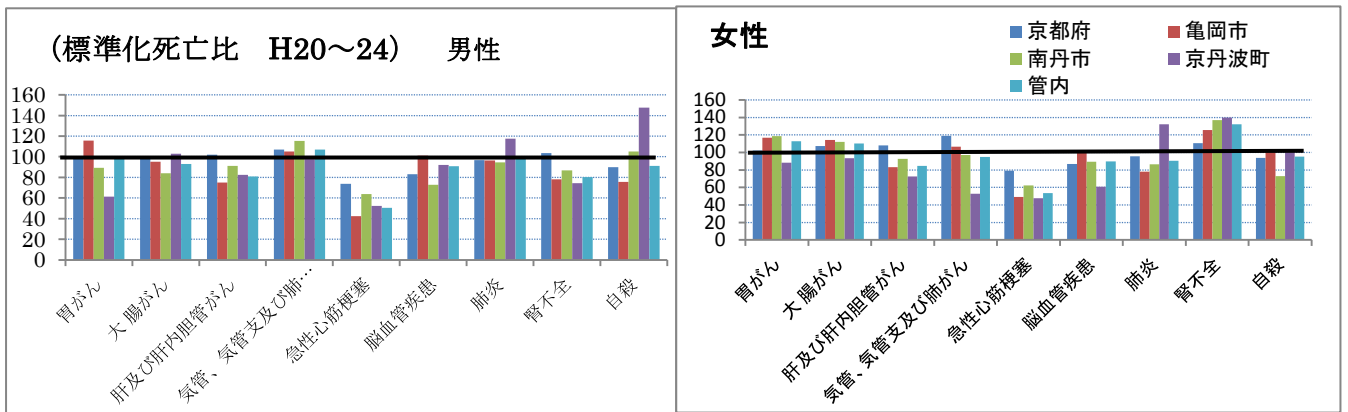
- ・ 「なんたん元気づくり体操」や「京都式高齢者介護予防プロジェクト事業」等、さまざまなツールを活用して健康づくりを推進する自主グループの拡大や後継者の育成の推進により地域における介護予防活動の定着が重要である。
- ・ 全市町でさまざまな介護予防事業を導入しており、今後は市民サポータの養成等市町と連携し地域活動への取り組みを進める。

統計データ



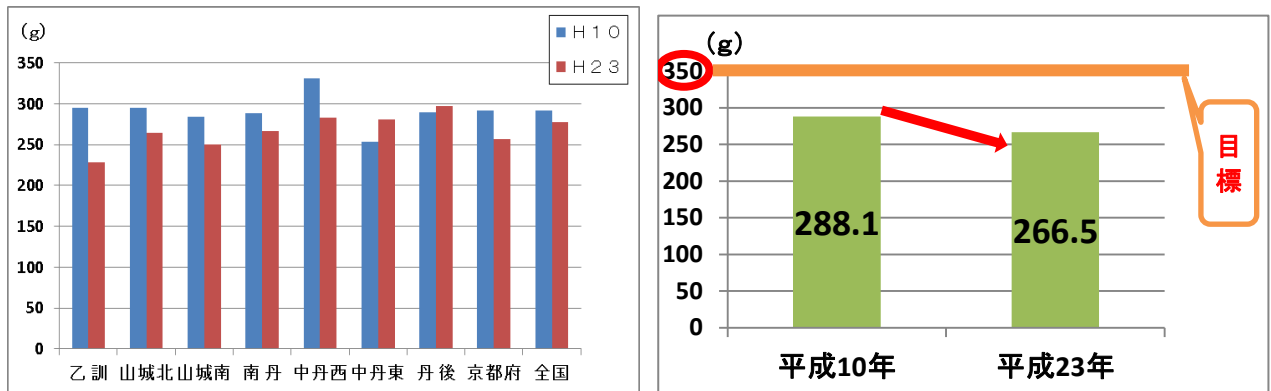
資料：介護保険制度の実施状況について（京都府高齢者支援課）

○管内市町の疾患傾向



資料：平成26年度京都・健康寿命向上対策事業報告（京都府）

○管内の平均野菜摂取量（京都府民栄養調査より）全国データのみH9年



○歯科関係データ（京都府歯科保健（平成24年度実績）・平成23年度歯科保健実態調査報告書等）より

	3歳児 一人平均むし歯数	12歳児 一人平均DMFT指数	80歳以上 一人平均現在指数	20歳以上で定期的 に歯科健診を受けて いる者の割合
亀岡市	0.9	0.6	9.7	/
南丹市	0.81	0.66		
京丹波町	0.49	0.47		
京都府	0.56	0.94	11.3	44.3
全国	0.68	1.1	13.9	34.1

(2) 前年度の主な取組状況

基本方向 ■3つの京都、みやこ構想関係		平成27年度の主な取組と進捗状況
①地域資源をいかした交流と賑わいの森の京都	■豊かな自然をいかした「森の京都」の推進	<ul style="list-style-type: none"> 管内8つの道の駅を「森の京都」のウェルカムゲートに位置付け(利用者数365万人) 「森の京都」戦略拠点への交通アクセス強化を進めるため、園部平屋線(殿田)、京都広河原美山線(内久保バイパス)の工事推進等実施。 管内製材加工施設の新設等増強 「南丹・京丹波林業振興実行委員」による木材利用拡大の普及活動 木質バイオマス体験学習会(4回)や優良木材展示市、府内産材利用施設見学会(2回)、「川上」から「川下」までの新たな連携・協働促進に向けた「京都丹波スクール講演会」の開催(1回)など、地域材需要促進に向けた活動
	■「食」や「森」をいかした京・里山のおもてなし	<ul style="list-style-type: none"> 学校給食の豆献立における「京都丹波豆ONEグランプリ2015」の実施(1回) 教育体験旅行の受入人数拡大に向け、首都圏・九州地方等の小学校や旅行代理店等への営業活動(24件)による新規顧客の獲得、農家組合を対象とした研修会(9地区115名)等の開催 農家民宿開設支援に向けた教育体験旅行受入農家への働きかけ・個別相談と開設に必要な炊事場やトイレ等の改修工事費支援(新規開設6件)
	スタジアムや地域資源をいかしたスポーツ観光	<ul style="list-style-type: none"> 京都丹波・トライアスロン大会in南丹の開催(参加者・来場者数 6千人) スポーツ観光の企画プログラム開発(6件) 宇津根橋(郷ノ口余部線)PI橋脚工事着手等、専用球技場へのアクセス道路整備を推進。
	新しい時代の観光振興	<ul style="list-style-type: none"> 京都丹波観光協議会(2市1町)、観光協会と連携した中部圏をはじめとする大都市圏からの誘客をねらったキャンペーンの実施 海外での観光プロモーションの実施(2回) 地域の観光資源の発掘と、若年層の郷土愛の醸成を図るための京都丹波観光プランコンテストの開催(1回)、応募プランの旅行商品化に向けたモニターツアー等の実施(1回)
②だれもが健やかで住んでみたくなるまちづくり・人づくり	安心・安全で住みやすいまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> 地域防災力を向上させるため、観光客等が多く訪れるスポットに、指定避難所等への経路を多国語で示した「避難経路案内板」(府内産木材使用)を設置 9箇所 管内住民が自らの安心・安全を確保するため、地域の危険箇所を認識できるハザードマップ作成のためのワークショップを開催 洪水や土砂災害発生時等の対処法を掲載した啓発パネルを作成し、地域防災力を向上 広域防災活動拠点開設訓練を実施(10/15) 京都府水防対応訓練や亀岡市総合防災訓練において、WEB会議システムを活用した情報交換を実施 不法投棄等防止旬間パトロールを実施(5/28)するとともに、違法開発案件について、管内関係機関と連携して迅速な対応と拡大防止を図った。 府民公募型整備事業等を活用し、通学路の整備を行うことにより交通安全対策を推進 園部川(横田工区)や本梅川(穴人工区)などの平成25・26年度災害箇所を復旧完了。 京都丹波の道・長寿プランに基づき、橋梁93橋(全体487橋)、舗装8.1km、トンネル(本体)3箇所(全体12箇所)の点検を実施しアセット・マネジメントの手法による管理推進。 口蹄疫や高病原性鳥インフルエンザなど、有事における家畜防疫体制の整備に向けた実地防疫研修会、先遣隊研修会等(計4回)の実施
	人権の尊重と自立と協働による思いやりと信頼の「絆」づくり	<ul style="list-style-type: none"> 休日の庁舎を利用し、地域団体と共同で「京都丹波・振興局マルシェ」を開催。(延べ2回、95ブース、2,500人)
	地域に伝わる自然や歴史・文化をいかした地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> 市町、里の公共員、京都移住コンシェルジュ等と連携して、空き家の掘り起こしや活用を進めるとともに、ふるさと暮らしの情報発信を強化し、農村地域への移住定住を促進 新規定住者の受け入れ 23人 都市部でのセミナー・相談会開催 3回 地域再生活動に取り組む地区数 3地区 農林漁業民宿開業支援 6軒 子育て世代の女性が安心して暮らせる環境づくりのプラットフォーム開設 3地区
	地域資源をいかした次世代につなぐ人づくり	<ul style="list-style-type: none"> 保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、大学等の連携事業に取り組み、世代間交流を推進(取組件数 12件)
	だれもが健康で安心して暮らし支え合う「絆」づくり	<ul style="list-style-type: none"> 【健康づくり】 きょうと未病改善センター等と連携した「京都丹波の健康長寿」を目指し、がん・生活習慣予防など健康づくりを住民協働で推進 (運動普及イベント参加住民62名 野菜レシピの活用団体11団体 防煙教室の実施17校等) 青・壮年期の食を通じた健康づくりを進めるため、「けんこう食堂化」事業を展開(2箇所) 【高齢者支援】 管内医療機関等関係機関との協働による地域包括ケアシステムの構築 医療・看護・介護等多職種が広く参加する「なんたん在宅医療連携研究会」等意見交換会の開催(5回 のべ153機関 のべ309名参加) 京都市高齢者介護予防プロジェクト事業の普及啓発(2市1町) 【子育て支援】 地域で活動する子育てサークルを研修会等を通じて支援(36団体) 若者定着や担い手育成を目指して学生同士の交流の場を創出(参加者38名) 【障害者支援】 障害者の新規就労支援、職場定着支援(新規一般就労27名) 福祉人材の確保対策及び職場定着の促進(福祉職場就職フェア 2回 参加者のべ108名・研修交流会の開催 4回 参加者のべ205名) ぬくもり京都丹波フェアの開催(京都桂川イオン)

基本方向 ■3つの京都、みやこ構想関係		平成27年度の主な取組と進捗状況
③地域の活力を支える産業・農林業の振興	■地域特性をいかしたものづくり産業の振興	<ul style="list-style-type: none"> ・企業立地や立地企業の高度化(増設等)を促進(4件)、新規雇用52名 ・新光悦村での工芸品等の展示販売会実施(1回) ・亀岡市、南丹市及び京丹波町と、企業立地促進法に基づく基本計画の策定 ・中小企業の経営安定や発展等、経営環境の整備に向けた支援 企業訪問(159件) 中小企業応援セミナー・施策説明会の開催(4回) 中小企業による経営革新等の取組み支援(36件) ・南丹高校テクニカル工学系列と地域ものづくり企業と連携した、人材育成 企業見学、ものづくり体験等への参加者数(51人) 南丹キッズパークの開催(1回) 保護者対象の企業見学バスツアーの開催(1回)
	地域の強みやチャンスを活かした、元気で魅力ある商店街・個店づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの商店街等のニーズ把握に努め、支援施策の活用支援等を通じ、賑わいと交流による活性化を支援 ・地域の特色を活かした商店街づくりのための施策活用支援(7件) ・京都丹波の知名度向上や地域の特産品・名品などの販路拡大支援(物産展参加事業者数48社)
	■農商工連携を軸にした年商1億円をめざす経営体の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・京都丹波農起業塾(4回)の開講により、加工等新たな取組にチャレンジする農業者を育成 ・畜産経営継承塾を開設し、畜産後継者2名が新たに技術改善を実施(8回) ・農地中間管理事業による農地集積(88ha)
	■水田農業の大転換も見据えた集落営農の法人化による地場産業としての農業振興	<ul style="list-style-type: none"> ・ブランド京野菜を中心とする戦略作物(「京かんざし」、黒大豆エダマメ、丹波くり)については、平成30年度の目標である栽培面積100haを突破(⑦101ha) ・耕畜のマッチング強化による稲WCSの生産が拡大(30.8ha→52ha) ・「京のこだわり畜産物生産農場」登録農場(12農場→21農場) ・農産物直売所の販売額拡大に向け、直売所を巡る「京都丹波地産地消クイズラリー」の実施や農産物直売所マップの作成 ・京都丹波ブランドを活かした農畜産業の振興、防災減災対策を推進するため、府営農業基盤整備の事業実施 亀岡市千歳地区農道舗装 L=950m、南丹市新庄地区洪水吐 1門 南丹市大石ヶ谷池地区ため池堤体工 L=79m
農業・農村資源をいかしたユニバーサル農業(福祉農業)の創造とビジネス展開	<ul style="list-style-type: none"> ・管内取組事業者のヒアリング調査を実施。 ・福祉農業取組事業者、障がい者雇用支援機関、農・園芸福祉団体、京都学園大学、行政(管内農業・福祉担当部局)等による、京都丹波ユニバーサル農業(福祉農業)懇談会を開催し、課題や取組について意見交換を実施。 	
④安心・安全と交流を支える基盤整備	安心・安全な災害に強いまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・桂川(千々川、園部川等の支川も含め)の河川工事実施 ・緊急輸送道路ネットワーク整備工事等実施。異常気象時の通行規制の緩和・解消のため検討会開催。 ・土砂災害警戒区域 3,122箇所指定(指定率81%)を実施。 ・桂川(山本樋門)に監視カメラを設置し防災情報の発信した。 ・地域で開催される行事にて耐震模型実演等を実施し、木造住宅の耐震診断・耐震改修の戸数を増加。 ・市町と連携した、ため池災害の減災防災対策を実施するとともに、地域の防災意識向上を図るためため池災害の減災防災対策を実施 危険ため池の整備改修 2池、ため池耐震調査等 4池、ため池ハザードマップ作成 6池
	明日の「京都丹波」の礎を築く交流の郷づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・国道423号(法貴バイパス)にて園場整備と連携した整備計画の推進。 ・「保津川かわまちづくり計画」に基づき、にぎわいの拠点(山本浜)となる桂川高水敷掘削実施。
	交流の基盤となる交通ネットワークの整備	<ul style="list-style-type: none"> ・京都広河原美山線(内久保バイパス)等、地域の振興・観光に寄与する道路工事等実施。 ・京丹波三和線(和田工区)等で1.5車線の道路整備のため工事等実施。
	豊かな自然環境の保全と快適で人にやさしい地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・児童等が安全に通学できるよう、計画的な歩道整備(L=1,310m完了)
⑤「京都丹波」ブランドの国内外への発信	「京都丹波」の地域ブランドの国内外への発信により、人を呼び込み、元気なまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・丹波自然運動公園にて、「森の京都ハロウィン」開催(1.5万人来場) ・京都丹波観光協議会(2市1町)、観光協会と連携した、中部圏をはじめとする大都市圏からの誘客をねらったキャンペーンの実施(15回) ・海外での観光プロモーションの実施(2回) ・観光情報発信のための観光パンフレット・ドライブマップ等の制作(日本語版、外国語版) ・地域の観光資源の発掘と若年層の郷土愛の醸成を図るための京都丹波観光プランコンテストの開催(1回) ・応募プランの旅行商品化に向けたモニターツアー等の実施(1回) ・「大丹波連携推進協議会」(中丹・南丹広域振興局、兵庫県丹波県民局)による大丹波観光ドライブマップの発行、観光プロモーションの実施

(3) 数値目標に対する施策指標の進捗状況

施策指標	進捗率 (%)	進捗率グラフ				
		0%	25%	50%	75%	100%
地域振興計画						
南丹						
1 地域内での製材加工される量(原木換算)	34.3					
2 教育体験旅行の受入団体数	141.2					
3 教育体験旅行の受入人数	68.9					
4 府の支援による農家民宿の開設数	45.5					
5 スポーツ観光の企画プログラムの開発数	50.0					
6 京都丹波地域への観光入込客数	231.4					
7 観光客の一人当たり消費額	-3.3					
8 地域力再生交付金等を活用したプラットフォームの数	20.0					
9 子どもの社会体験事業数	5.0					
10 子どものための文化体験の数	25.0					
11 里の公共員を配置する等過疎高齢化が進む農山漁村で地域再生活動に取り組む地区数	60.0					
12 農山漁村へ移住した都市住民等の人数	57.5					
13 幼小中高大連携の取組件数	40.0					
14 「就業・生活支援センター」と連携して一般就労に結び付いた障害のある人の数	39.8					
15 障害者福祉事業所における障害者の月平均賃金	-23.8					
16 健康(食)教育及び啓発を実施する事業所・大学	58.3					
17 インターンシップ、企業見学、ものづくり体験等への参加者数	51.0					
18 中小企業による経営革新等の取組支援(認定・助成等)	69.2					
19 農産物や加工品等の年間販売額が1億円を超える農業法人等の数	62.5					
20 京都丹波アグリネット(仮称)を核とした新たな商品の開発数	47.1					
21 集落型営農法人の数	16.7					
22 戦略作物(「京かんざし」、黒大豆エダマメ、丹波くり)の栽培面積	116.7					
23 農業振興地域の農用地における耕作放棄地面積	-19.0					
24 農産物直売所の販売金額	148.5					
25 土砂災害防止法による土砂災害警戒区域等の指定箇所の割合	61.2					
26 ため池整備による安心安全な地域づくり	0.0					
27 道の駅の利用者数(購買者数・レジカウンター)	212.9					

(4) 前年度の課題に対する対応状況

ベンチマークレポート [2015年10月] の「今後の課題」について、平成27年度2月補正予算及び28年度当初予算で計上した主な事業は次のとおり

① 南丹地域振興計画

今後の課題	主な事業等
(1) 「森の京都」の推進を通じて、いかに地域のブランドを高め、発信し、地域の活性化につなげるか	
☆核となる全国育樹祭のPR強化 ☆関連イベント等を含む「森の京都博」全体像の樹立	・森の京都産業観光事業
☆道の駅～7彩+1味夢の里～の「森の京都」ウェルカムゲートとしての機能化	・京都丹波・森の京都フェスティバル事業
☆「京都丹波・食と森の交流協議会」を核とした教育体験旅行の拡大や農家B&B、滞在型クラインガルテン等の仕組み作り	・京都丹波ゆったり・おもてなし創生事業
☆産学公連携による地域特産品の開発・事業化	・「食」や「森」をいかした京・里山のおもてなし事業
☆綾部宮島線（脇谷バイパス）、京都広河原美山線（内久保バイパス）等、重点整備エリアへのアクセス道路の整備 ☆各エリアを回遊できる案内標識の設置	(本庁予算で対応)
☆計画的な木材搬出を可能とする新たな森林管理システムの産学公連携での開発	(本庁予算で対応)
☆新技術を活用した森林組合の「森林経営計画」の策定促進	(本庁予算で対応)
☆担い手への農地の集積と、新たな農業ビジネス、6次産業化などに取り組む人材育成	・地域を支える農畜産業経営体育成事業
(2) 「子育て王国 京都丹波」をどのように実現するか	
☆次代を担う若い世代の地域への誘導・定着 ☆子育てにやさしい地域づくりの推進	・「子育て王国 京都丹波」推進事業
(3) スポーツ（見る・する・楽しむ）をキラーコンテンツとした観光ビジネスをいかに育てるか	
☆豊かな自然環境と食、アウトドアスポーツ等スポーツ振興を結びつけた地域の観光ビジネスの推進	・京都丹波まるごとスタジアム化推進事業
☆外国人観光客のさらなる誘客増を目指した取組の展開や新たなターゲット地域への観光情報の発信・PR	・京都丹波が一体となった国内外誘客おもてなし事業 ・広域観光推進事業
☆新たな観光ルートの開発・商品化	・京都丹波が一体となった国内外誘客おもてなし事業

中丹地域振興計画

(1) 今後の課題

今後の課題 1

「海・森の京都」の推進による魅力あふれる地域づくり

- 中丹地域では、京都縦貫自動車道の全線開通や京都舞鶴港のふ頭整備など、交通・物流基盤の整備が進み、近年は外航クルーズ船の寄港も大幅に増加している。また、森林面積が77%を占め、多くの自然公園を有し、豊富な森林資源に恵まれている。
- 北部7市町を全国有数の観光圏とするための「海の京都」や、北中部6市町を森・川・里の環境や文化を未来に受け継ぎ、活かしていく地域とするための「森の京都」の推進により、新たな観光資源の開発や地域資源を活用した新しい観光・ライフスタイルの推進、情報発信の強化などの取組を行っている。
- 「海・森の京都」をはじめとする観光・地域振興や交通基盤の整備により、観光入込客数が平成27年に387万人に達するなど着実に増加してきている。

【課題】

☆「森の京都」づくりの推進による森林文化の発信や成長・循環型林業の推進
地域内外の人・ものの交流を促進するため、「森の京都」拠点の魅力向上とネットワーク強化を図るとともに、「森の京都博」を通じた森林文化の発信、京都丹波ジビエのブランド化、成長・循環型林業の振興を推進する必要がある。

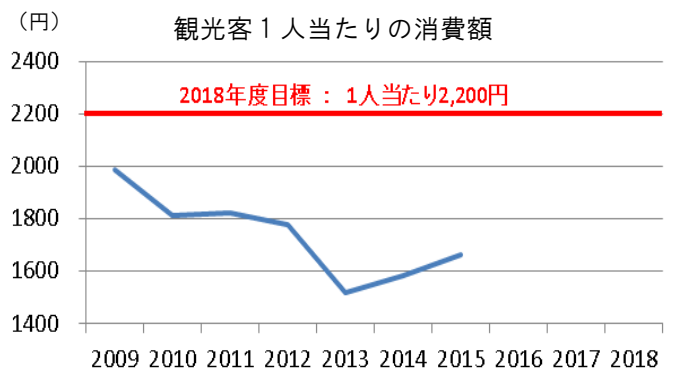
☆「海の京都」づくりの推進による広域観光の推進

観光客にとって魅力ある地域として交流人口の更なる増加を図るため、地域の豊かな自然等を活かしたスポーツ・トレイルの推進や、クルーズ客船の更なる誘致拡大等が必要である。

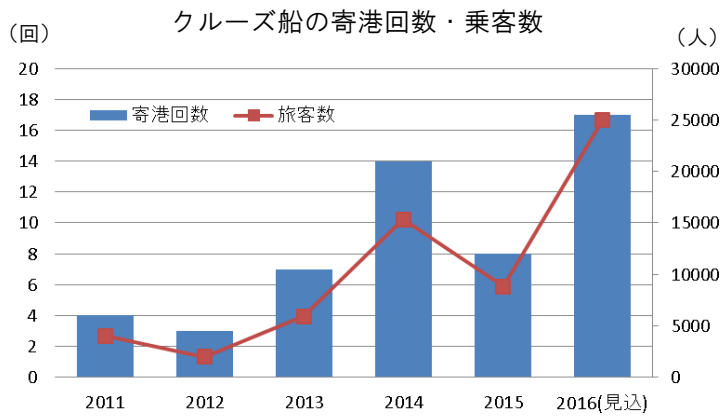
統計データ



資料: 観光入込客数(京都府)

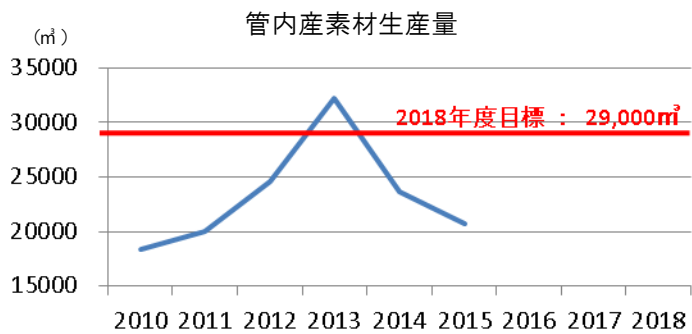


資料: 観光消費額(京都府)



資料：京都舞鶴港おもてなし関係者連絡会議調べ（推計）

施策指標



資料：中丹広域振興局調べ

今後の課題 2

移住・定住対策の推進による持続可能な地域づくり

- 中丹地域の人口は、2015年国勢調査（人口速報）でも引き続き減少しており、合計特殊出生率は府内では比較的高いものの、出生数も2013年の1,762人が2014年は153人減少して1,609人となるなど、少子高齢化が進んでいる。
- 一方、特に大学進学時を含む15歳から19歳の人口の転出が大きく、地域を担う若者世代が不足する傾向にある。
- 農林水産物に関しては、万願寺甘とうや丹後とり貝などのブランド製品の生産拡大が図られているが、担い手や後継者が不足しており、商工業においては、産業の担い手となる若年層の人口が減少している中、雇用のミスマッチなどから中小企業の事業者数も減少してきている。

[課題]

☆ 総合的な移住・定住促進に向けた取組の推進

総合的に移住・定住を促進するため、新たな条例に基づく移住促進特別区域の指定を進めるとともに、北部地域連携都市圏市町の取組の後押し等により、移住・定住希望者に対するワンストップ対応の組織化等を推進する必要がある。

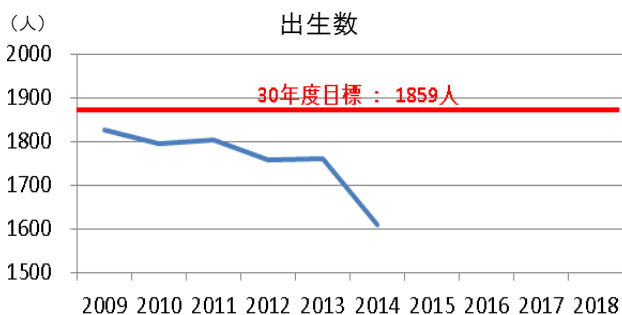
☆ 少子化対策や若者の地元定着の促進

少子化の進行に歯止めをかける環境づくりを推進するため、育児不安解消等の子育て家庭への支援を充実するとともに、地域を担う若者を育成するため、若者が地元の魅力を発見し愛着を深める機会の創出等を促進する必要がある。

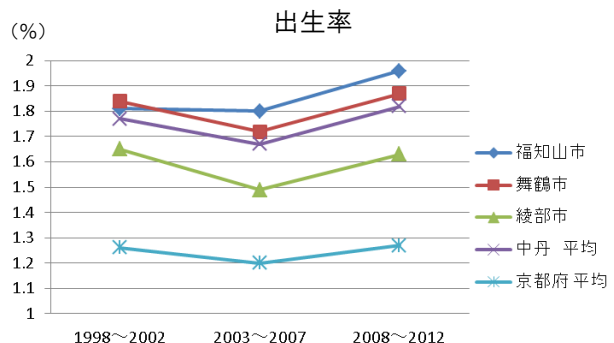
☆ 産業育成による雇用創出や未来を担う人づくり

地域で学び働く意欲ある若者を支援するため、産学公連携による雇用創出や就職・就学支援、高校卒業後の進路選択の多様化等を推進することが必要である。また、「北部リサーチパーク（仮称）」の具体化等による新産業育成や中小企業の育成・支援、農林水産業におけるブランド製品の生産拡大や多様な担い手の育成・確保等を推進する必要がある。

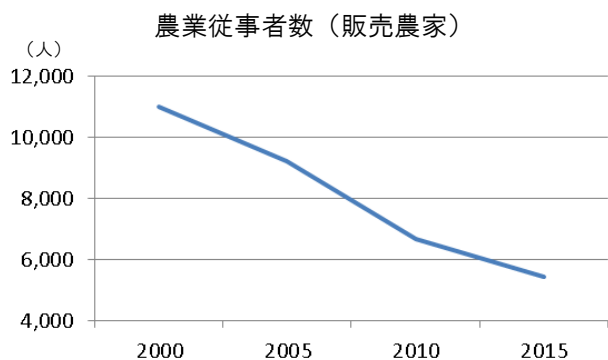
統計データ



資料：人口動態統計

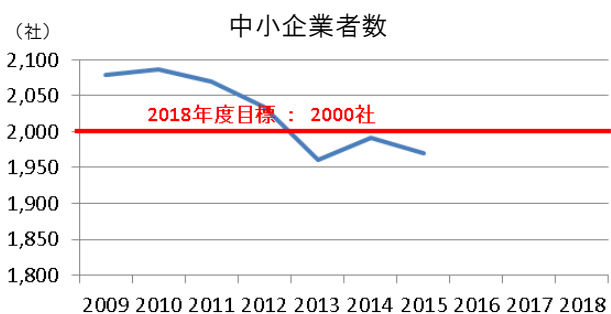


資料：人口動態統計

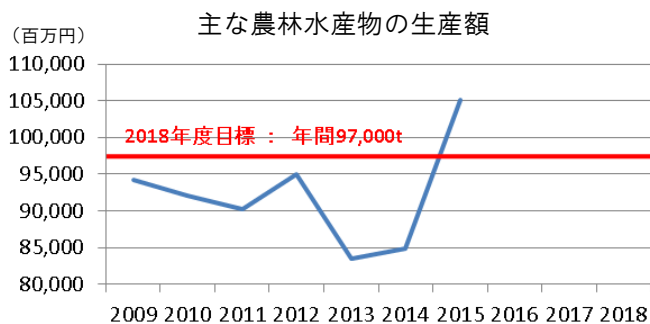


資料：京都府農林水産統計年表、農林業センサス、
近畿農林水産統計年報

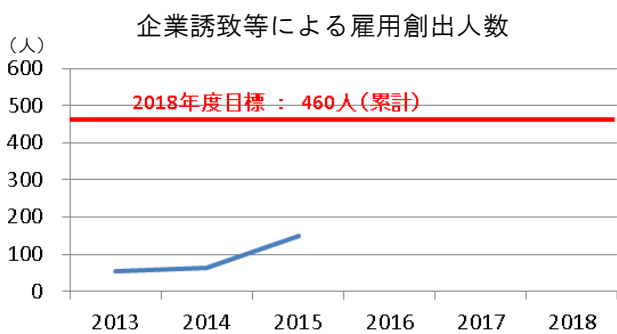
施策指標



資料：商工会議所等調べ



資料：中丹広域振興局調べ



資料：中丹広域振興局調べ

今後の課題 3

地域の未来を拓く礎づくり

- 日本海側拠点港に選定された京都舞鶴港の整備や舞鶴若狭自動車道・京都縦貫自動車道の全線開通をはじめ、産業基盤の整備は進んできている。
- 北部地域7市町は、連携と協力により圏域全体での経済成長や生活関連機能の向上を目指し、平成27年4月に「北部地域連携都市圏推進協議会」を設置した。
- 中丹地域は、平成16年以降、10年間で3度の甚大な災害が発生している。また、隣接県に立地する原子力発電所の防護準備重点区域（UPZ）となっており、減災・防災対策の強化に向け取組を進めている。

[課題]

☆ 北部地域が飛躍する環境づくり

北部地域の将来に亘る発展の礎を築くため、北陸新幹線京都府北部ルートの実現に向け機運醸成を図るとともに、企業誘致や産業の創出を促進するため、京都舞鶴港や高速道路網を活かした物流ネットワークの形成等を推進する必要がある。

☆ 北部地域連携都市圏の形成支援

北部地域の市町の連携と協力により圏域全体の活性化を図るため、北部地域連携都市圏市町が取り組む広域連携事業の後押し等により、連携都市圏の形成を支援する必要がある。

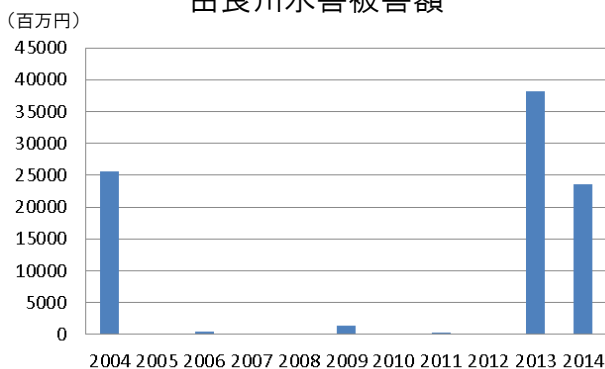
☆ 安心・安全の地域づくり

災害に強い地域づくりを進めるため、国の由良川緊急治水対策事業と連携した道路、河川の整備、弘法川・法川床上浸水対策特別緊急事業を着実に実施し、内水被害等の早期解消に向けた総合的な治水対策を推進する必要がある。

また、原子力防災対策のための基盤整備等を推進する必要がある。

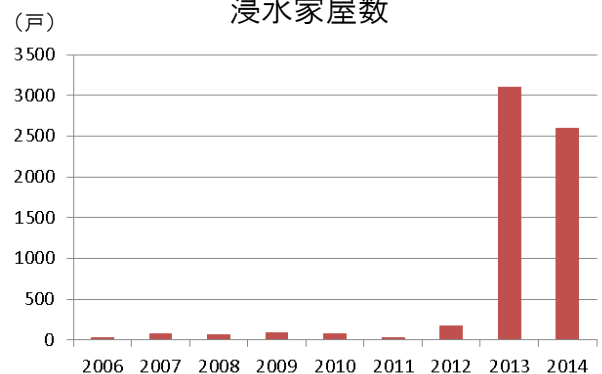
統計データ

由良川水害被害額



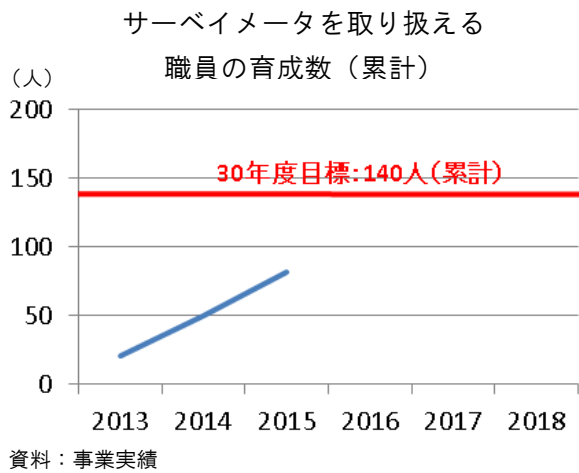
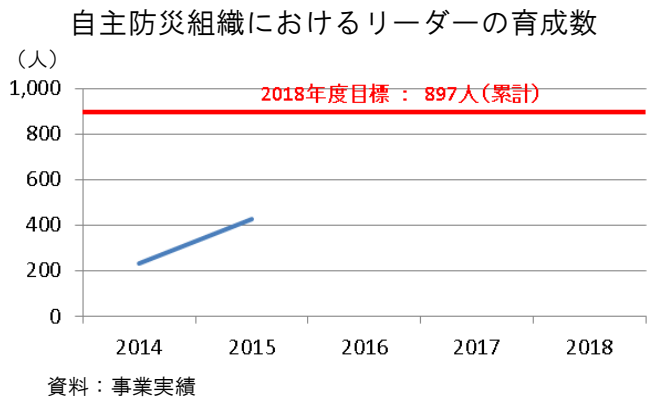
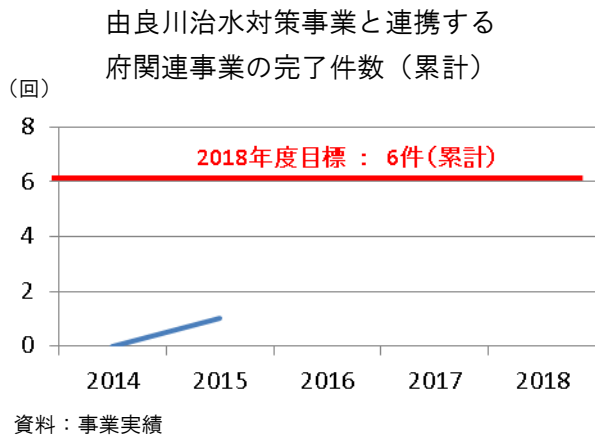
資料：水害統計

浸水家屋数



資料：水害統計

施策指標



(2) 前年度の主な取組状況

基本方向 ■3つの京都、みやこ構想関係		平成27年度の主な取組と進捗状況
①暮らしの安心・安全の確保	安心・安全な暮らしを支える基盤の整備	<ul style="list-style-type: none"> ○平成16年台風23号、平成25年台風18号及び平成26年8月豪雨による浸水被害を受けた対策強化 ・石原停車場戸田線(戸田橋)[福知山市前田～戸田]:詳細設計実施、工事着手 等 ○災害時の被害を軽減するため河川整備等を実施 ・犀川[綾部市物部町～今田町]:工事実施 ・宮ノ谷川[舞鶴市丸田]、大門川[福知山市大門]:工事実施 ○弘法川流域での総合的・効果的な対策の検討 ・弘法川流域で流出した立木や土砂等の量や発生場所を推計する調査実施 ○治山事業・農業用ため池改修・農業用道路整備による安心安全の向上 ・農業用ため池安心・安全マップの作成<作成箇所:5箇所(福知山市2、舞鶴市1、綾部市2)> ○河川防災カメラ等による防災情報の充実 ・府管理河川の監視体制を強化するため監視カメラや水位計等設置 <監視カメラ 弘法川・法川(2基)、水位計 法川1基 工事実施> ○暮らしを支える安全のまちづくり ・「京都の道・長寿プラン」に基づき定期的な公共施設の点検を実施 <橋梁134橋、舗装23.4km、法面43箇所> 等
	府民と共に取り組む防災・減災、防犯対策等の強化	<ul style="list-style-type: none"> ○地域で取り組む防災・減災対策 ・地域防災リーダー研修会を開催し、災害時に地域住民先導等の役割を担う地域防災リーダーを養成 <研修会:3回、197人(累計:428人)> 等 ○災害時に援護が必要な人への支援 ・老人福祉施設等での入居者の避難訓練等を実施<実施施設:76施設> ○生活者の安心・安全の強化 ・自転車盗対策及び自転車任意保険加入促進に向け、広報誌等により啓発<啓発活動:4回>
	危機事象に即応する危機管理体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> ○原子力災害をはじめとした災害対応の強化や関係機関との連携 ・サーベイメータの操作技術や原子力防災の基礎知識を持った職員を養成<養成人数:31人(累計:111人)> ○京都府中丹東保健所の移転・建替事業の推進 ・健康危機管理に対応できる庁舎の整備を推進<27年度:工事着手> ○感染症・家畜伝染病対策等の推進 ・介護事業所等職員を対象とした感染症対応研修会を開催し、事案発生時に迅速に対応する感染予防リーダーを養成<養成人数:124人> 等
②いきいき・健やかに暮らせる環境の整備	安心して子どもを産み・育てることができる環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ○少子化に歯止めをかける環境づくりの推進 ・若者の朝食の欠食や野菜不足等を踏まえ、中丹の食材を生かした食と健康をテーマに婚活イベントを開催<参加者:81人> 等 ・医師、臨床心理士、助産師等で編成した「プラスワン・エンジェル隊」を子育て広場等に派遣し、子育て応援講話や子育て悩み相談を開催<開催回数:13回> ○発達障害児への支援 ・保育士、幼稚園教諭等を対象に「発達障害児支援リーダー養成研修会」を開催し、園における発達障害児支援を中心的に担うリーダーを養成<養成人数:37人> 等
	医療・介護・福祉の充実と健康づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ○中丹地域医療再生計画の着実な推進 ・医療・介護連携による一体的なサービスの提供に向けた情報共有や意見交換のため、管内の医療関係者等で構成する「中丹地域保健医療協議会」を開催 等 ○病気予防の推進 ・学校や企業と協働して、がん予防に係る出前講座を開催<開催回数・参加人数:25回、2,748人> 等 ○医療・介護・福祉を一体化した地域包括ケア体制の整備 ・府民を対象とした認知症予防講演会等の開催<開催回数、参加人数:2回、220人> 等 ○高齢者の元気な地域づくり ・集落の見守りや交流活動を行うふるさとを守る絆ネット推進事業の推進<新規協定数:3協定> ○障害のある人の生活支援と社会参画・交流の拡大 ・事業所職員を対象とした販路拡大、マーケティングに係る研修会を開催<開催数:6回> 等 ○自殺を防ぐ環境づくり ・現状理解や相談機関の紹介など、地元イベント等で府民に啓発を実施<実施回数:3回> 等

基本方向 ■3つの京都、みやこ構想関係		平成27年度の主な取組と進捗状況
③産業の振興と定住の促進	■「『森の京都』づくり」の推進等による森林文化の発信と林業の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ○都市住民等との交流ビジネスに取り組む民間事業者の支援 <ul style="list-style-type: none"> ・農家民宿や農家レストランの施設整備等を支援する「みやこ構想セカンドステージ加速化推進事業等」の活用<活用数:3件> ○全国育樹祭の開催に向けたモデルフォレスト運動等の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・地域や団体等へモデルフォレスト運動等への参加の働きかけ強化による運動の推進 <参加者数:872人> 等 ○森林整備から木材の利用拡大まで一環した成長・循環型林業の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・施業路の開設や高性能林業機械の活用など、間伐の効率化等により管内素材生産量を拡大<生産量:20,670m³> 等
	農業・水産業の振興と魅力ある中丹の「食」づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○野生鳥獣害対策の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・未整備地区への防護柵の新設<新設地区数・延長:84地区 119km> 等 ○農業・水産業を支える基盤整備の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・大江南域基幹農道[福知山市大江町千原～南山]<平成27年度:南山工区道路工L=220m完了>等 ○農林水産業の多様な担い手育成・組織づくりへの支援 <ul style="list-style-type: none"> ・「農業サポートセンター」と就農先の情報を共有するなど連携し、新規就農者・就業者を確保 <新規就農者・就業者:39人> ○ブランド製品の生産拡大とブランド力の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・豆類、野菜(万願寺甘とう、紫ずきん 等)、茶、栗、水産物(丹後とり貝、岩がき)の生産拡大<生産額:1051百万円> 等 ○魅力ある中丹の「食」づくりの推進 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の飲食店が行うジビエ料理のメニュー開発の支援等を行うことにより、ジビエフェア参加店を確保<参加店:31店> 等 ○魅力ある直売所を核とした地産地消と農商工連携等の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・地元食材をPRするため、管内の直売所や地元産食材を扱うこだわり料理店を巡る地産地消スタンプラリーを実施<応募数:74件>
	■地域に根ざす中小企業等の育成・支援	<ul style="list-style-type: none"> ○北京都ものづくりパークを核としたものづくり産業の振興 <ul style="list-style-type: none"> ・北部リサーチパーク(仮称)の推進に向け、求められる機能を地元企業等に調査 ○中丹新ビジネスサポートの推進 <ul style="list-style-type: none"> ・中小企業応援隊による創業・第二創業の支援 <支援件数:168件> 等 ○中小企業経営の下支え <ul style="list-style-type: none"> ・中小企業経営の下支えによる事業者数減少の抑止 <中小企業者数:1,969社> 等
	■京都舞鶴港や高速道路網をいかした物流拠点の形成	<ul style="list-style-type: none"> ○日本海側拠点港「京都舞鶴港」の機能強化に向けた整備推進 <ul style="list-style-type: none"> ・舞鶴国際ふ頭の物流ターミナルとしての機能を拡充するため、国直轄工事(岸壁70m整備)と連動したふ頭用地整備工事と多目的クレーン整備着手<仮締切護岸工事:平成27年11月完了、多目的クレーン詳細設計:平成28年3月完了> 等 ○京都舞鶴港を通じた交易の活発化 <ul style="list-style-type: none"> ・航路の便数や搬送日数など港の利便性向上を図る船社訪問等プロモーション活動を展開することにより、物流の基盤である航路を拡充:日韓露国際フェリー航路の開設決定 ○戦略的な集荷活動の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・集荷活動を通じて得た情報を踏まえ、相当量を扱う事業所へ重点的にアプローチして京都舞鶴港利用貨物を拡大<コンテナ取扱貨物量:8,620TEU> 等
	■定住を促進するための環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ○農山漁村の定住促進対策の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・移住コンシェルジュ等と連携し、空き家等の情報を広く発信し、管内3市が取り組む移住者受入体制の整備等の支援 各市の定住相談窓口を通じた定住促進等<定住者数:67人> 等 ○産学公連携による雇用の創出 <ul style="list-style-type: none"> ・企業誘致による当該年度雇用創出<雇用創出人数:148人> ○総合就業支援拠点「北京都ジョブパーク」による就職支援 <ul style="list-style-type: none"> ・求職者のニーズに応じ、就職相談やセミナーの実施、ハローワークによる職業紹介等を実施 <就職内定者数:1,449人> 等

基本方向 ■3つの京都、みやこ構想関係		平成27年度の主な取組と進捗状況
④交流人口の獲得・拡大と地域の活性化	■『海の京都』づくりの推進等による広域観光の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○誘客戦略の構築 <ul style="list-style-type: none"> ・「海の京都観光圏」の魅力向上による観光集客力の強化を目指した取組による観光入込客数等の増加<観光入込客:387万人、観光消費額:1,662円/人> 等 ○外航クルーズの誘致拡大と周遊・滞在型観光の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・クルーズ船おもてなしのための旅客対応施設の整備(第2ふ頭)<平成27年度:旅客ターミナル:1棟> 等 ○中丹スポーツ観光の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・SEA TO SUMMIT開催等によるアウトドアスポーツ愛好者等の誘客<参加者数:3,077人> ○観光情報の発信力強化 <ul style="list-style-type: none"> ・大丹波情報の市町イベントでのPR<PR回数:9回> 等
	■「人・もの・情報」の交流・連携基盤づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○「人・もの・情報」の交流・連携基盤づくり <ul style="list-style-type: none"> ・国道175号[上福井]:道路改良工事実施 綾部大江宮津線[物部町]:道路改良工事実施 等 ○JR山陰本線・福知山線・舞鶴線・小浜線及び京都丹後鉄道の利用促進 <ul style="list-style-type: none"> ・管内職員による積極的なJR及び京都丹後鉄道の利用<利用人数:17,756人> 等
	■過疎化・高齢化が進む集落の維持・再生	<ul style="list-style-type: none"> ○里力再生に向けた集落リーダーの育成とむらづくり <ul style="list-style-type: none"> ・「命の里」事業による農村再生活動や明日の京都村づくり等の取り組みを通じ、集落リーダーの育成や集落の維持・再生・自立・発展に向けた支援 <支援集落数:80集落> ○都市農山漁村交流活動の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・都市住民との交流の拠点となる農家民宿の開設を推進 <府の支援による農家民宿の開設数(累計):27軒(新規5軒)> ○地域創造拠点整備の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・市等と連携して地域ごとの実情・特性に応じた「地域創造拠点」づくりを支援<整備箇所数:2箇所>
⑤共生・協働のまちづくり	人権の尊重と多様な主体による地域社会参画	<ul style="list-style-type: none"> ○一人ひとりの尊厳と人権が尊重され、だれもが自分らしく生きることのできる社会づくり <ul style="list-style-type: none"> ・管内職員人権問題職場研修を各総合庁舎(3会場)で開催し人権意識の高い職員を養成する ○地域で輝く女性の応援と男女共同参画の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・地域活動等に意欲のある女性を応援し、女性のパワーをいかした地域づくりを推進するため、「輝く女性地域プラットフォーム」を設置 ○地域力再生プロジェクト等による地域力の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・地域力再生プロジェクト支援事業交付金による支援<支援団体数:65団体> 等 ○大学等との連携による地域課題解決の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・管内3市等と連携して、中丹管内の課題解決に向け、施策の検討を共同で実施 等
	郷土を愛し、未来を担う人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○規範意識や人を思いやり尊重する心など、豊かな人間性をはぐくむ教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・管内3市の小学生の地域イベントへの参加など地域体験プログラムの実施 <地域体験プログラム参加者:1,003人> 等 ○地域を担う若者の定着とリーダーの育成 <ul style="list-style-type: none"> ・職業や社会活動を体験する中丹ならではのインターンシッププログラムの実施<インターンシッププログラム参加者:180人>
	地域の自然・環境・文化を守りはぐくみ、平和を愛する風土づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○国定公園等の優れた自然・環境の保全と魅力発信 <ul style="list-style-type: none"> ・与保呂川(舞鶴市常)の河川公園の整備:工事実施 ○快適な環境の整備と持続可能な循環型社会の構築 <ul style="list-style-type: none"> ・道路照明の省電力化等、環境改善を実施(道路照明灯のLED化:48基) ○地域固有の文化の保護と発展への支援 <ul style="list-style-type: none"> ・地域が主体的に取り組む地域固有の文化の継承など地域の多様な絆を育む文化事業等の支援 <支援件数:12件> ○国際交流の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・「由良川元気サミット」において、京都府友好大使とふれあい外国の文化を知る機会を提供<参加者:50人>

(3) 数値目標に対する施策指標の進捗状況

施策指標	進捗率 (%)	進捗率グラフ			
		0%	25%	50%	75%
地域振興計画					
中丹					
1 由良川治水対策事業と連携する府関連事業の完了件数(累計)	16.7				
2 自主防災組織におけるリーダーの育成数(累計)	29.6				
3 サーベイメータを取り扱える職員の育成数(累計)	50.4				
4 出生数増	—	—			
5 新たに介護施設等で介護サービスの提供に携わる職員の数	40.9				
6 管内産素材生産量	-4.1	—			
7 主な農林水産物の生産額	276.1				
8 中小企業者数	20.5				
9 京都舞鶴港におけるコンテナ取扱量	21.2				
10 企業誘致等による雇用創出人数(累計)	32.2				
11 観光入込客数	82.9				
12 観光客の一人当たり消費額	21.1				
13 道路事業実施箇所件数(年間)	100				
14 府の支援による農家民宿の開設数(累計)	66.7				
15 地域力再生交付金等を活用したプラットフォームの数(累計)	40.0				
16 自分の夢や目標を持っている子どもの割合(小学校6年生)	—	—			
17 自分の夢や目標を持っている子どもの割合(中学校3年生)	—	—			
18 地域が主体的に取り組む文化活動への支援件数(年間)	—	—			

※ 基準値からの増減を目標とする指標等進捗率が表せない指標については、進捗率欄及び進捗率グラフ欄は「—」としている。

(4) 前年度の課題に対する対応状況

ベンチマークレポート [2015年10月] の「今後の課題」について、平成27年度2月補正予算及び28年度当初予算で計上した主な事業は次のとおり

① 中丹地域振興計画

分野	今後の課題	主な事業等
【暮らしの安心・安全の確保】		
安心・安全な暮らしを支える基盤の整備	◇国・市等関係機関と連携した道路、河川の整備の推進	(本庁予算で対応)
府民と共に取り組む防災・減災、防犯対策等の強化	◇地域住民の先導役を担う地域防災リーダーの育成	○災害に強い中丹地域づくり事業
危機事象に即応する危機管理体制の強化	◇原子力防災対策を推進するための訓練や研修を実施し迅速な対応ができる職員の育成	(本庁予算で対応)
【いきいき・健やかに暮らせる環境の整備】		
安心して子どもを産み・育てることができる環境の整備	◇保護者の育児ストレスの解消、子育て力の向上、地域で支える人材の育成 ◇妊娠から出産・子育てまでの「切れ目ない支援」の実現	○中丹少子化総合対策事業 ・中丹子育て応援 プラスワン ・インヅェル隊派遣事業 ・プラスワン・インヅェル支援隊応援講座
医療・介護・福祉の充実と健康づくりの推進	◇限られた医療資源を最大限に生かすための病連携、病診連携の推進 ◇京都府北部地域における介護・福祉人材の確保・育成に向けた3市や関係機関との連携強化 ◇「ほっとはあと製品」の販売促進	○中丹ふるさとを守る絆ネット推進事業 ○ほっとはあと輝き事業
【産業の振興と定住の促進】		
「『森の京都』づくり」の推進等による森林文化の発信と林業の活性化	◇木の文化の発信と中丹地域の移住・定住人口の拡大 ◇森林整備から木材の利用拡大まで一貫した成長型林業の推進 ◇「丹州材」の利用拡大に向けた環境整備 ◇竹林整備組織の強化と竹材の利用拡大	○森の京都ディスティネーションプロジェクト事業 ○「丹州材」による木の家づくり促進事業 ○竹林整備・活用ネットワーク化事業

<p>農業・水産業の振興と魅力ある中丹の「食」づくり</p>	<p>◇ブランド商品の生産基盤の強化と生産技術の向上 ◇丹波ブランド等の商品の付加価値向上に向けた支援 ◇地域ぐるみの野生鳥獣防除体制の確立 ◇農業の多様な担い手・組織の育成、農地集積による経営力強化 ◇中丹のお茶の認知度アップと新商品開発 ◇京都丹波ジビエの普及・販売の促進と安心・安全ブランドの強化・確立</p>	<p>○「丹波くり」ブランドアップ支援事業 ○野生鳥獣被害担い手育成事業費 ○茶どころ中丹魅力発信事業費 ○京都丹波ジビエ街道づくりセカンドステージ事業費</p>
<p>地域に根ざす中小企業等の育成・支援</p>	<p>◇「北部リサーチパーク（仮称）」の具体化に向けた取組推進 ◇中小企業応援隊と連携した事業者への販路開拓、新商品開発等支援の継続 ◇創業・第二創業の促進により、元気な地元事業者の育成と事業者数の減少を抑制</p>	<p>（本庁予算で対応）</p>
<p>京都舞鶴港や高速道路網をいかした物流拠点の形成</p>	<p>◇新たな航路の開設を目指した海外とのプロモーション活動等の継続や他港との連携強化 ◇集荷活動等のポートセールスの継続的な取組</p>	<p>（本庁予算で対応）</p>
<p>定住を促進するための環境整備</p>	<p>◇高速道路網や京都舞鶴港の整備を活かし、物流関連企業の誘致を推進 ◇移住者が活用できる「空き家」の十分な確保とUターンだけでなくIターンへの支援の拡充</p>	<p>○中丹地域広域連携・移住促進事業（中丹の暮らし体感プログラム）</p>

【交流人口の獲得・拡大と地域の活性化】

<p>「『海の京都』づくり」の推進等による広域観光の推進</p>	<p>◇高速道路網や京都舞鶴港の整備を活かし、「海の京都観光圏」の魅力向上や滞在プログラムの充実等による観光集客力の向上、「スポーツ・トレイル」の推進、情報発信の強化等により、更なる交流人口の拡大や観光消費額の増大を促進</p>	<p>○「海・森の京都」スポーツ・トレイル推進事業</p>
<p>「人・もの・情報」の交流・連携基盤づくり</p>	<p>◇計画的な道路事業の推進</p>	<p>（本庁予算で対応）</p>
<p>過疎化・高齢化が進む集落の維持・再生</p>	<p>◇教育体験旅行など多数の宿泊客受け入れには一般農家での宿泊を可能にする仕組み作り</p>	<p>○中丹地域広域連携・移住促進事業（農家民宿支援事業） ○中丹ふるさと再生推進事業</p>

【共生・協働のまちづくり】

<p>人権の尊重と多様な主体による地域社会参画</p>	<p>◇専門家の派遣を通じた地域団体の課題解決への支援 ◇NPO等の活動の充実に向けた中間支援団体との連携強化や団体間の交流促進</p>	<p>○中丹パートナーシップセンター事業</p>
<p>郷土を愛し、未来を担う人材の育成</p>	<p>◇「由良川元気サミット」を通じ、ふるさとを学び、愛着や誇りを持つ機会の充実 ◇地域と連携した学習機会の充実</p>	<p>○中丹未来っ子ふるさと再発見事業</p>
<p>地域の自然・環境・文化を守りはぐくみ、平和を愛する風土づくり</p>	<p>◇地域の文化力の向上に向けた取組支援</p>	<p>○中丹“絆”フェスタ事業</p>

丹後地域振興計画

(1) 今後の課題

今後の課題 1

丹後地域の活性化を牽引する観光振興

- 丹後地域への観光入込客数は、平成15年に約630万人であったが、近年は海外も含めた他の観光地との競争激化の中で減少傾向となり、平成26年は約538万人となっていた。平成27年は、京都縦貫自動車道の全線開通や「海の京都博」の取り組みにより、観光入込客約613万人と前年を大きく上回り、観光消費額も対前年比108%に増加したが、日帰り客の増加により宿泊率は減少
- 丹後産コシヒカリ、ブランド京野菜、ナシ、ブドウ、メロン、茶、丹後とり貝、丹後ぐじなど丹後地域の強みを活かした製品の増強や丹後王国「食のみやこ」を拠点とした丹後の「食」の魅力発信を進めるとともに、それらを支える基盤づくりとして、「丹後農業実践型学舎」、「海の民学舎」等による新規就業支援や後継者確保、農業経営の規模拡大による農地集積の加速化など担い手の育成・支援を行い、食を活かした産業振興を推進

[課題]

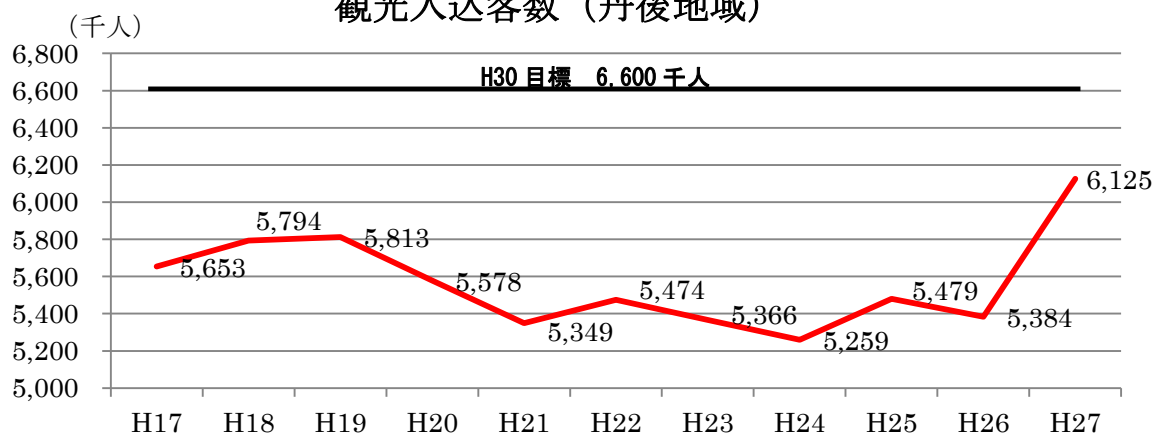
☆ 「海の京都」の取組促進による滞在交流型の観光地域づくり

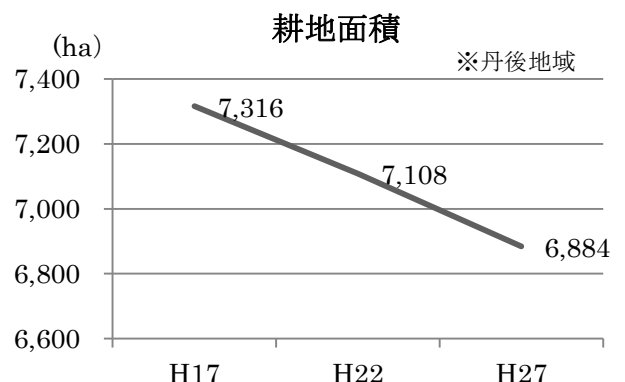
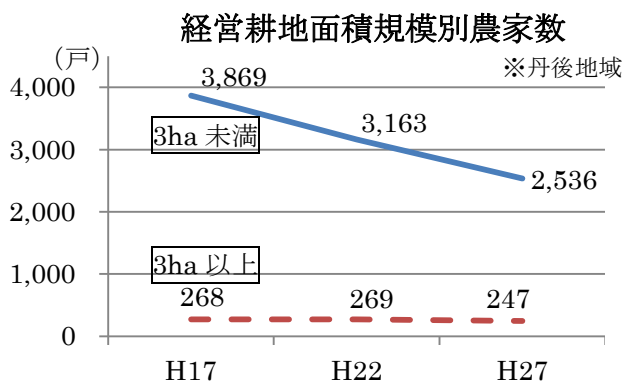
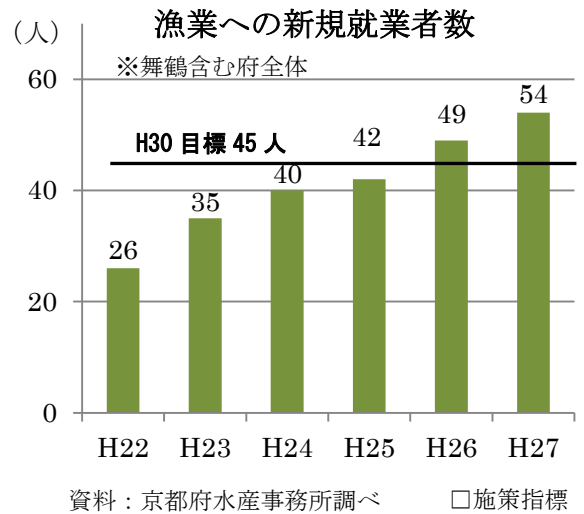
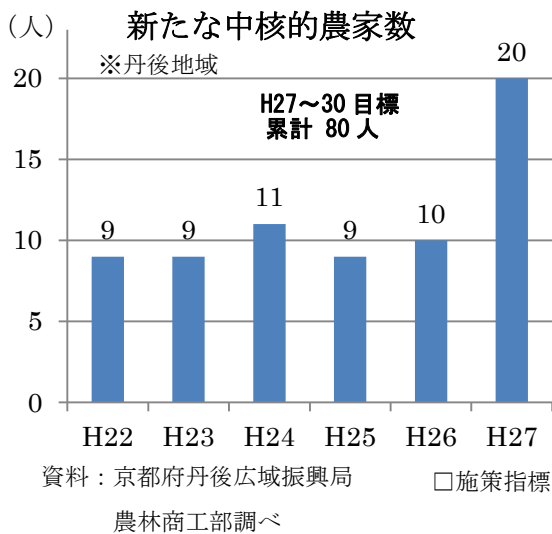
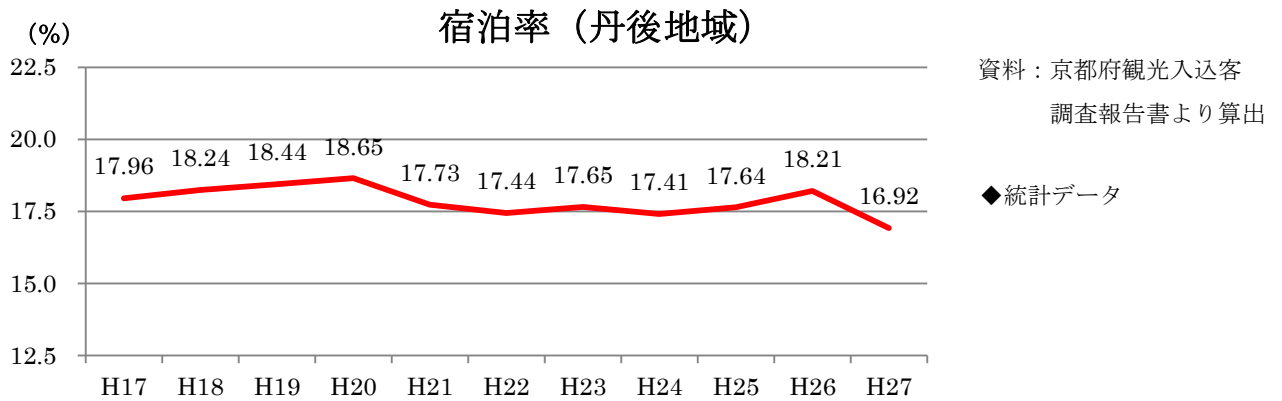
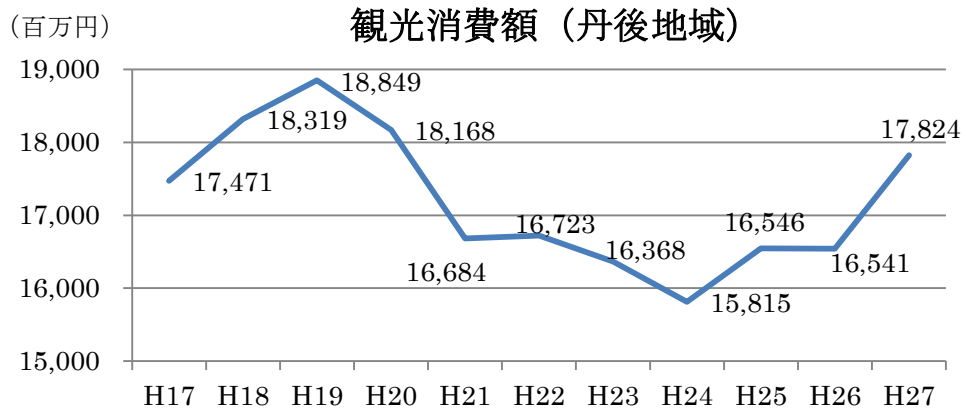
新たに設立した「海の京都DMO」とも連携し、豊富な観光資源を更に磨き上げ、「丹後地域ならではのブランド」を築き、これらを活用した体験プログラムの開発や広い範囲に点在している観光資源を鉄道やバス、船等を活用して周遊するシステムを造成し、経済波及効果の大きい滞在交流型の観光地域づくりをさらに推進して、一人当たりの観光消費額を増やしていくことが必要

☆ 観光との連携による食関連産業の創出

丹後王国「食のみやこ」を10次産業化の拠点として「食」の開発・販売を推進するとともに、「食」に関連する人材育成を展開し、観光との連携による食関連ビジネスの創出を進めることが必要

観光入込客数（丹後地域）





ものづくり産業等地域産業の振興

- 平成 24 年末以降、我が国の経済は緩やかな回復基調が続いているが、中国を始めとするアジア新興国や資源国等の景気の下振れ、英国のEU離脱問題といった海外経済の不確実性が高まっている。特に、中小企業の多い丹後地域は、個人消費の伸び悩みなどの影響により、景気回復の実感が得られていない状況であり、今後の経済動向による更なる影響も懸念
- 丹後地域は約 300 年の伝統を誇る「丹後ちりめん」の産地であり、織物業が基幹産業の一つとして地域経済を支えてきたが、消費者の生活スタイルの多様化の中、和装需要の低迷等により、平成 27 年の丹後ちりめんの生産数量は 35 万反（ピーク時：920 万反（昭和 48 年））となるなど厳しい経営環境
- 機械金属業においても、高付加価値の商品づくりや企業競争力強化のための高度な加工技術をもった技術者の確保、高度加工に対応できる新規設備の導入等が求められており、平成 20 年 10 月に、中小企業のための総合的な拠点となる「丹後・知恵のものづくりパーク」を開設し、府北部のものづくり人材の育成や新規産業の創出を支援
- 更に、進学等を機に丹後を離れる若者が多く、これからの地域産業を担う人材確保が困難な状況であることから、平成 25 年 4 月に「北京都ジョブパーク」を開設、北部地域へのU・Iターン促進の取組を進めており、U・Iターン者の就業者数は増加傾向にあるが、業種によっては人手不足の状況

【課題】

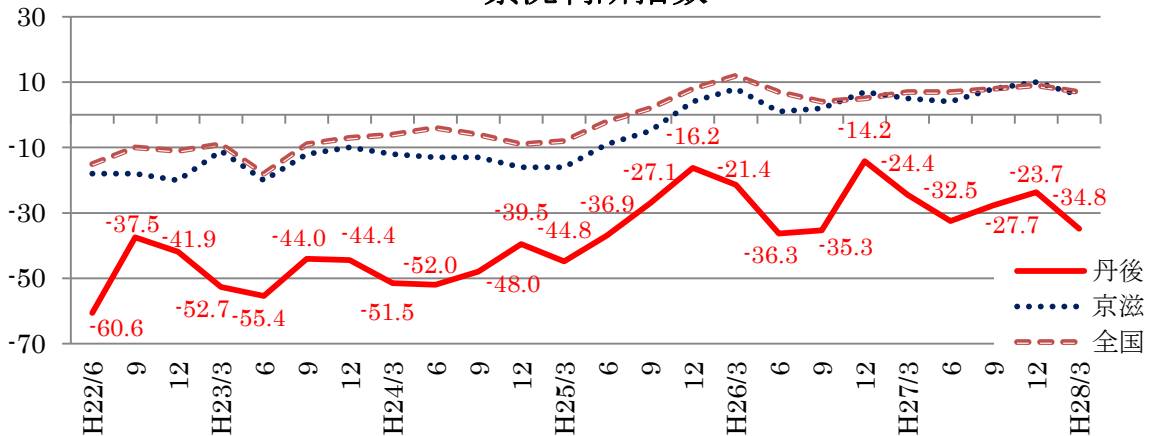
☆「丹後・知恵のものづくりパーク」の充実とU・Iターンの促進

「丹後・知恵のものづくりパーク」において、これまでの実績や経験の蓄積、様々な設備、ネットワーク等を最大限に活用した技術支援を行うとともに、丹後地域に戻りたい、住みたいと考える若者等に対して、積極的に地域情報や企業情報等を発信することにより、U・Iターン等を促進

☆「丹後ちりめん創業 300 年」に向けた丹後ブランドの発信

2020 年に迎える「丹後ちりめん創業 300 年」を契機とし、300 年の歴史が培った技術の発信等を通じた丹後の「地域ブランド」のアップ、住民（特に若者）の地域に対する「誇り」の醸成

景況判断指数

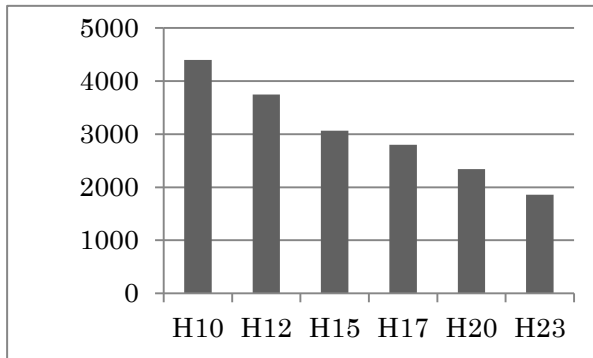


資料：民間金融機関調べ

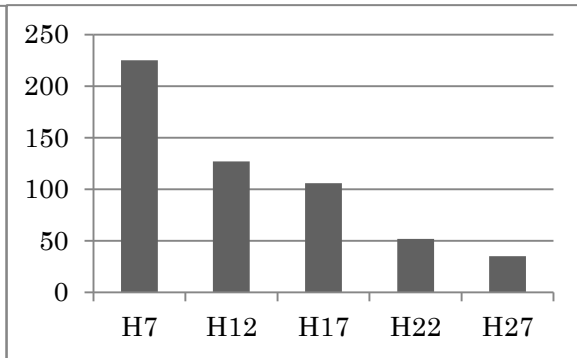
◆統計データ

丹後織物産地の推移

事業所数



ちりめん生産量（万反）

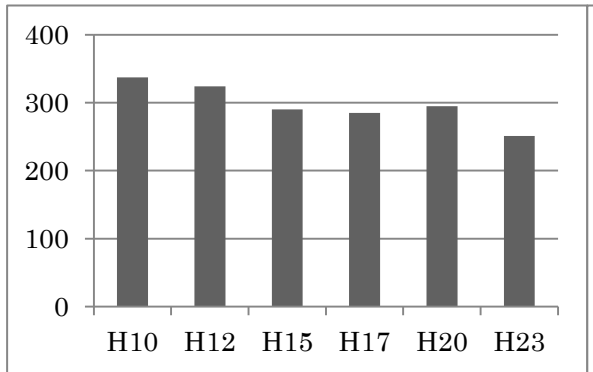


資料：工業統計調査（経済産業省） ◆統計データ
 ※H23は経済センサス - 活動調査
 （総務省・経済産業省）

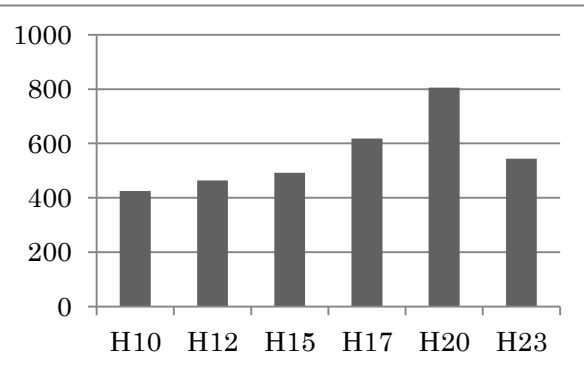
資料：丹後織物工業組合調査 ◆統計データ

丹後機械金属業の推移

事業所数



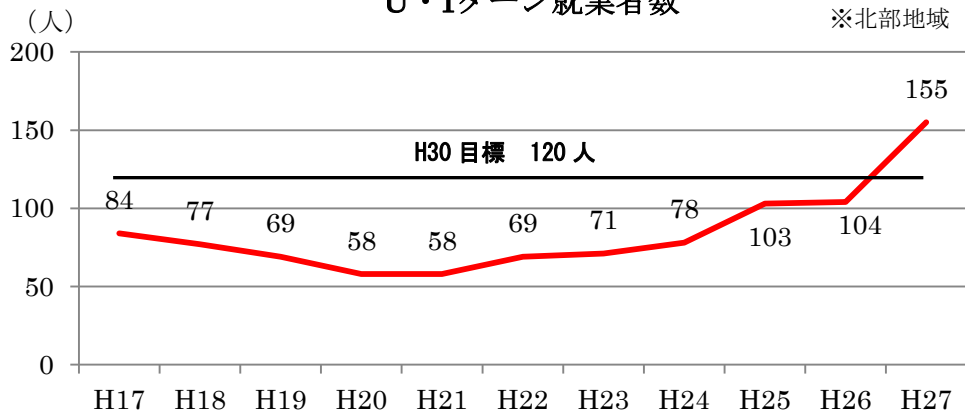
製造品出荷額（億円）



資料：工業統計調査（経済産業省） ◆統計データ
 ※H23は経済センサス - 活動調査
 （総務省・経済産業省）

資料：工業統計調査（経済産業省） ◆統計データ
 ※H23は経済センサス - 活動調査
 （総務省・経済産業省）

U・Iターン就業者数



資料：北京都ジョブパーク調べ

□施策指標

府民生活の安心・安全の確保等

- 日本海に面している丹後地域では、津波に対する防災対策が求められており、平成28年3月に公表した津波浸水想定等に対応する防災訓練等を実施
- 医師をはじめとする医療従事者が不足しているため、府立医科大学附属北部医療センターを「北京都安心医療拠点」とし、医師派遣機能強化など地域医療体制の充実を図る取組を展開
- 丹後圏域の死因の第1位である「がん」の早期発見、早期治療のため、がん検診受診勧奨を推進するとともに、がんに対する正しい知識を普及するため、「生命のがん教育」「防煙教室」等を実施
- 高齢化が府内で最も進む中で、認知症や慢性疾患を抱えた高齢者等が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、医療や介護、福祉の各サービスが一体的に提供できる地域包括ケアシステムを推進
- 丹後地域は、20～30歳代の人口比率が府平均と比較して低率であるとともに、年々減少の一途となっており、地域の活性化を牽引する次世代の^{けん}人材が不足

【課題】

★ 地域の実情に応じた防災対策の推進と医療・介護・福祉の更なる充実

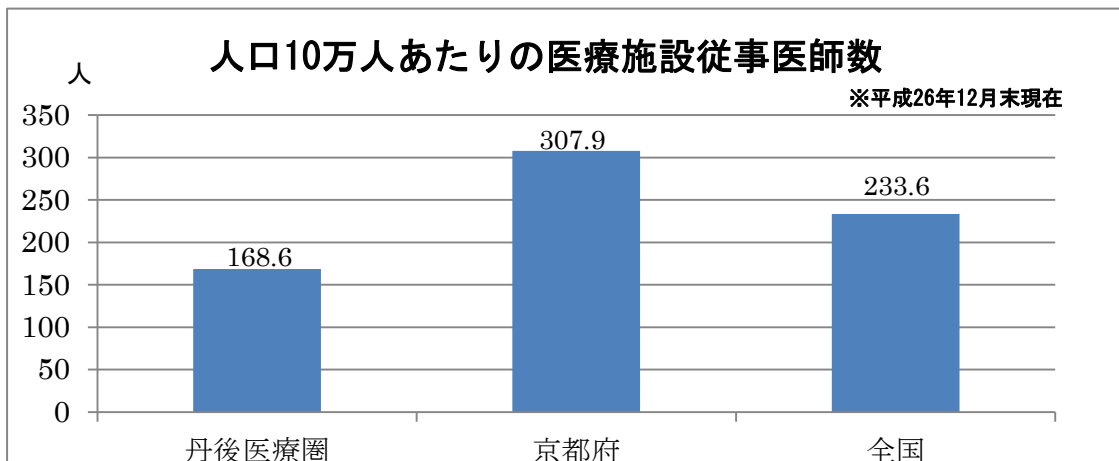
地震による津波、雪害等地域特有の災害などに対処するため、住民の力を結集した取組をまちづくりの段階から進め、ソフト・ハード両面から地域の安心・安全を確保するとともに、年齢や障害の有無にかかわらず、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、医療・介護・福祉を更に充実

★ 生活習慣病の発症・重病化予防の推進

丹後地域は、食塩摂取量が高く、他地域に比べ日常生活における平均歩数が少ないなど、生活習慣病の発症リスクが高いため、地域住民対象の取組と併せて、事業所訪問等により、働き世代を対象に生活習慣病の発症予防、重症化予防の取組が必要

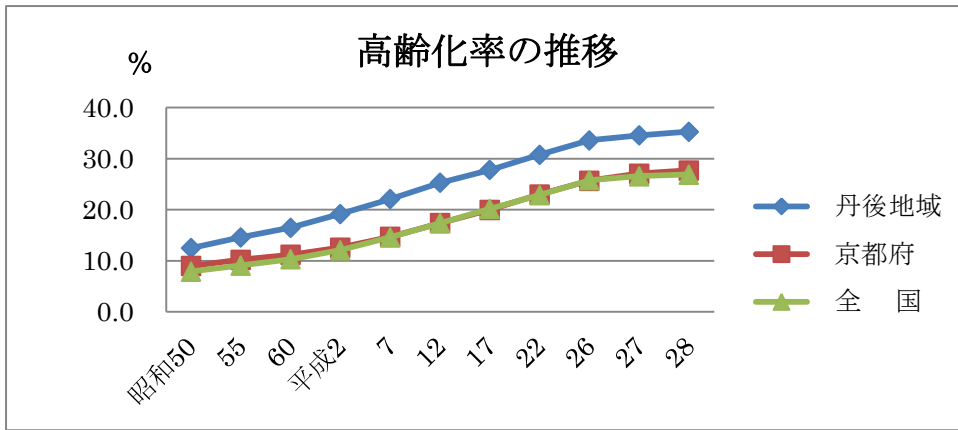
★ 若者が誇りと愛着を持って暮らせる地域づくり

10～20年後の丹後を見据え、未来を担う子どもたちに丹後の自然・歴史・文化を学習・体験する機会等を提供することで、ふるさとへの愛着を高め、地元定着者を増やすしくみづくりが必要



資料：厚生労働省「医師・歯科
医師・薬剤師調査」

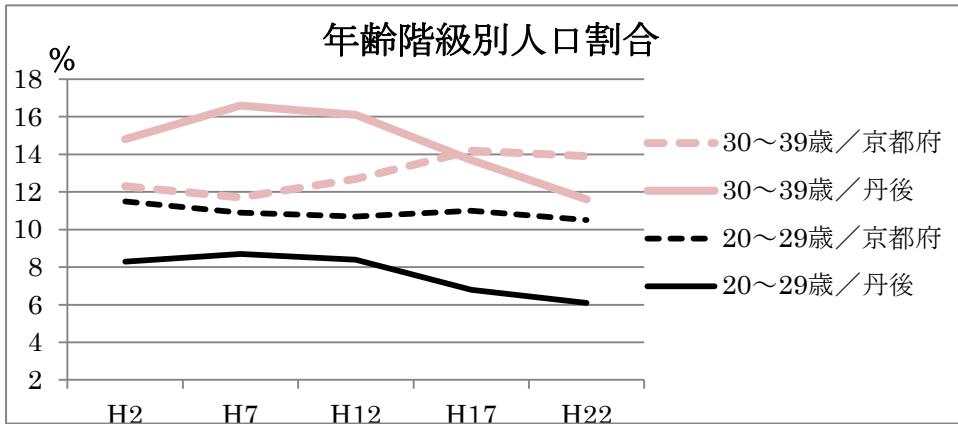
◆統計データ



資料

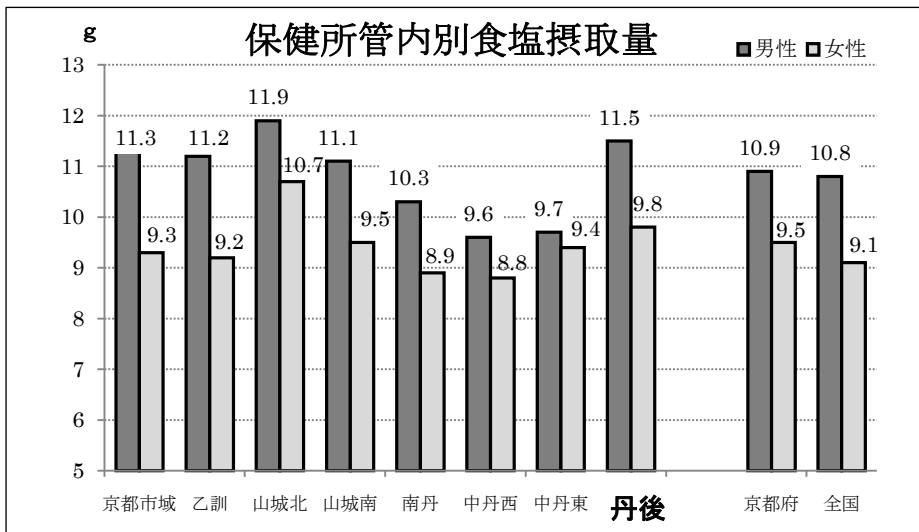
- ・平成 22 年までは国勢調査
- ・平成 26～28 年「全国」は総務省推計人口
- ・平成 26～28 年「京都府・丹後地域」は住民基本台帳に基づく市町からの報告数値

◆統計データ



資料：国勢調査

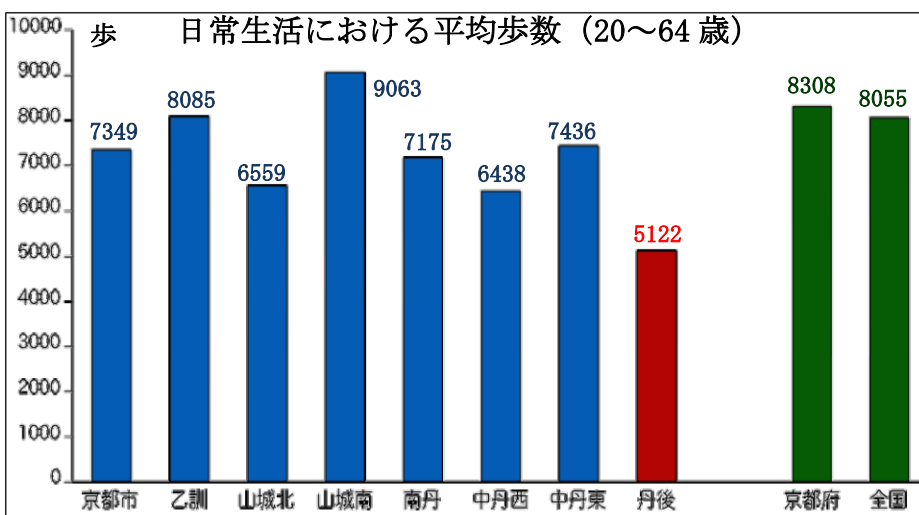
◆統計データ



資料：平成 23 年京都府民健康栄養調査

◆統計データ

※平成 26 年度京都・健康寿命向上対策事業報告書でも、丹後地域は「保存食、発酵食、練り製品等で塩分の高い食事が多い」と報告



資料：平成 23 年京都府民健康栄養調査

◆統計データ

※平成 26 年度京都・健康寿命向上対策事業報告書でも、丹後地域は「交通手段には自家用車が欠かせず、運動量が少ない」と報告

(2) 前年度の主な取組状況

基本方向 ■3つの京都、みやこ構想関係		平成27年度の主な取組と進捗状況
① 丹後地域の活性化を牽引する観光振興	■「海の京都」構想の実現	<ul style="list-style-type: none"> 海の京都博の開催(滞在型ツアーの実施 6ツアーなど) 「海の京都」の戦略拠点と調和した基盤整備の推進(地域構想推進美観事業 6件) 中京圏の旅行会社等ファムトリップ・商談会の実施(旅行会社19社、雑誌社等メディア3社) 丹後王国「食のみやこ」における10次産業化拠点に向けた整備 食関連ビジネスを推進する丹後地域アグリネットの運営 丹後産コシヒカリ特A獲得に向け、栽培管理の徹底を図る情報発信等の取組を実施 農商工連携等の取組を支援(20件) 鹿、猪肉の安定供給を促進(管内23店舗で提供) 丹後ばらずし食べ歩きマップやポスター等により情報発信 漁業者にきめ細かな「丹後とり貝」育成指導を行うなどしてブランド水産物の生産拡大を実施 新型漁業巡視艇により漁場パトロールを強化
	■「食」を支える基盤づくり	<ul style="list-style-type: none"> 丹後農業実践型学舎や担い手養成実践農場等による担い手の育成 大区画水田の整備(1地区継続実施) 老朽化した基幹水利施設(頭首工)の改修(1地区継続実施) 防護柵設置、捕獲講習会、兵庫県等との連携による広域捕獲など、有害鳥獣対策を推進 「海の民学舎」を開校し第1期生8名の研修を実施
	「観光」を支える基盤づくり	<ul style="list-style-type: none"> 山陰近畿自動車道・大宮峰山道路の事業促進を支援
② ものづくり産業等地域産業の振興	エコノミック・ガーデニング方式等による丹後の中小企業成長・発展支援	<ul style="list-style-type: none"> 中小企業応援隊等による経営サポート(中小企業応援隊による伴走支援 5,689件) 各種支援策を活用した新たな分野・新事業に挑戦する中小企業を応援(15件) 丹後織物企業等への経営支援(設備投資等支援件数137件/白生地生産数量351,309反)
	「丹後・知恵のものづくりパーク」の技術支援・人材育成の拠点化	<ul style="list-style-type: none"> 技術相談等を通じた在職者の人材育成を実施(4,982人) 企業ニーズ等を反映した各種研修会、講習会、研究会等の開催(3,512人)
	丹後ちりめん等織物業や機械金属業の振興と「新丹後ブランド化」	<ul style="list-style-type: none"> デザイナー等との協働による新商品、新分野商品開発を支援(40企業) 大消費地での展示商談会の開催による丹後ブランドの販路拡大を支援(22回) 伝統産業生産基盤支援制度を活用した経営支援(137件) 海外でも受け入れられる新たな商品開発、海外への販路開拓を支援(6社)
	地域産業を担う人づくり・就業支援・若者の定着・定住対策の強化	<ul style="list-style-type: none"> 北京都ジョブパークと連携したU・Iターンの促進(U・Iターン就業者数155人) 移住促進条例の施行を契機に、京都移住コンシェルジュ等と連携を図り、移住・定住を促進
産業振興の基盤となる道路整備の推進	<ul style="list-style-type: none"> 大型バス周遊等のため、蒲入バイパス、上野平バイパス等の丹後半島一周道路を整備推進 国道482号、網野峰山線、掛津峰山線の広域観光アクセス等の道路整備 	
③ 環境と文化の伝承	山陰海岸ジオパークや天橋立等丹後地域ならではの自然環境・文化の保全と発信	<ul style="list-style-type: none"> APGN山陰海岸シンポジウム(参加618名)、JGNガイドフォーラム(参加130名)を開催 山陰海岸ジオパークの道路案内標識を設置(6箇所) 天橋立の世界遺産登録をめざし、松並木保全活動(松食い虫対策、広葉樹伐採等)を実施
	丹後地域の豊かな自然環境を守り育てる取組の推進	<ul style="list-style-type: none"> 地域の森林を地域で支えるモデルフォレスト運動の取組を推進(8地区/1,038人) 海岸松林の整備と再生(整備面積:18ha)を推進 府内産木材の利用を拡大(緑の交付金制度利用595m³、間伐材の搬出2,850m³) 健全な森林を育成するための森林経営計画の策定指導(樹立面積:178ha) 大学生ボランティアと協働したカキ殻回収の実施など阿蘇海環境改善を図る取組を実施 漂着ゴミの回収、適正処理の実施(25箇所) 不法投棄監視指導員による海岸、河川等の監視パトロール(283回)
	地域文化の伝承、スポーツ観光の推進	<ul style="list-style-type: none"> 市町や各種団体が行う行祭事や文化イベントをフェイスブック等を活用し一体的に広報 地域の伝統芸能等の継承や後継者育成を補助金等により支援(5団体) TANTANロングライドの実施(参加者数1,553人)
	再生可能エネルギー等の活用	<ul style="list-style-type: none"> 管内産木材を原料とした木質燃料チップの利用 987t(温泉ボイラー)

基本方向 ■3つの京都、みやこ構想関係		平成27年度の主な取組と進捗状況
④ 災害対策の強化と安心・安全の構築	地域の実情に応じた防災・減災対策の推進	・市町と連携した図上訓練や防災講習会など、災害に強い丹後の人づくり事業の実施
	計画的な洪水・土砂災害・集中豪雨対策の推進	・加悦奥川、福田川、新庄川、鳥取川、小西川などの治水対策の推進 ・洪水時の警戒避難態勢の強化を図るため、筒川を水位周知河川に追加指定 ・土砂災害の発生若しくは恐れがある箇所への砂防・地すべり事業の推進(9箇所) ・崖崩れの発生若しくは恐れがある箇所の急傾斜事業の推進(7箇所) ・土砂災害警戒区域等の指定完了 ・要適正管理森林等災害予防事業を実施(1件) ・予防治山事業を実施(5地区)
	地震・津波に備えた安心・安全の確保	・木造住宅の耐震診断及び耐震改修(補助)を促進 ・市町と協力し、防災研修や図上防災訓練を実施
	雪に強い道路ネットワークの整備、原子力防災対策、老朽化したインフラ施設への対応	・冬場の幹線道路の安全性を向上させる工事の推進(国道312号、国道482号、宮津養父線) ・京都府原子力総合防災訓練の実施(11/28 野田川わーくぱる他)
⑤ 府民安心のまちづくり	北部医療センターを核にした地域医療体制・医師派遣機能の充実・強化	・北部医療センターの医師派遣による地域医療体制の整備支援(派遣回数3,792回) ・北部医療センター-京都安心医療拠点整備検討会における整備に向けた検討 ・リニアック整備に係る基本設計の完了
	「たんご健康長寿日本一」の推進、高齢者が安心して暮らせる地域づくり	・がん検診受診勧奨の取組の推進、生命のがん教育実施(9箇所) ・健康満丹リーダー等による健康満丹プログラムの講座開催(参加者1,994人) ・多職種協働による看取り家族交流会や若年性認知症相談会の開催(6回) ・地域リハビリテーションの支援体制強化に向けた研修会や事例検討会の開催
	総合的な少子化対策、障害者の自立支援、自殺のないまちづくり	・子育て支援団体と連携した子育て支援の展開、子育て出前ひろばの開催(33回) ・病後児保育の施設整備(1箇所) ・ゲートキーパー研修(52回/1,442人)、かかりつけ医うつ対応力研修、総合相談会の開催 ・たんごアートプロジェクト展示会の開催やグループホームの新規開設(よさのうみ福祉会) ・丹後はぐくみフェスティバルの開催 ・中・高校生を対象に「親」になるための子育て体験学習「将来の親」を実施(3校/16回) ・自殺やうつ病等に対する理解の促進を図るため小中学校で「いじめ予防教育」を実施(5校)
	生活困窮者等への支援、暮らしを取り巻く安心・安全の確保	・消費生活に関する被害の未然防止を図るための講座の実施(27回/1,739人受講) ・生活相談就労支援員による寄り添い支援(相談者29人) ・「与謝野町くらしとしごとの支援ネットワーク」による就労支援、子どもの貧困対策セミナー実施
⑥ 府民がいきいきと暮らせる地域づくり	地域カビジネス等新たな地域カ再生活動への支援強化	・地域団体のビジネス活動を交付金(地域カビジネス)により支援(8団体) ・地域団体の幅広い活動を交付金(一般)やSNS等での情報発信により支援(延べ228団体) ・管内NPO団体等の交流を深めるイベント等を開催(92人参加)
	若者が誇りと愛着を持って暮らせる地域づくり	・小中高校生が丹後の多様な魅力について学ぶ「TANGO魅力伝え隊」を実施(8校) ・丹後にゆかりの著名人による講演・体験教室「丹後の子どもドリームプロジェクト」を開催(2回)
	地域を担う人づくり、命の里の再生とふるさと保全・農村再生活動	・共に育む「命の里」事業により、農村集落の再生活動を支援(9地区) ・一村一業により地域活性化を図る明日の京都村づくり事業を支援(5地区) ・農村集落への移住・定住促進のため、空家改修を支援(12件) ・農林漁業体験民宿の開設支援(6件) ・棚田や農山村の大切さを子供たちに体験してもらいイベントを実施(32回)
	より利用しやすい公共交通ネットワークの実現	・鉄道事業再構築により「京都丹後鉄道(丹鉄)」での運行を開始 ・丹鉄の特急車両リニューアル等、利用促進に向けた取組を推進 ・駅舎の広場整備・トイレ改修による利便性の向上やマルシェ等による駅舎有効活用の促進

(3) 数値目標に対する施策指標の進捗状況

施策指標	進捗率 (%)	進捗率グラフ				
		0%	25%	50%	75%	100%
地域振興計画						
丹後						
1 丹後地域を訪れる観光入込客数	58.0					
2 観光客の一人当たり消費額	-3.7	—				
3 名神高速道路から北部への移動にかかる所要時間(大山崎JCT～京丹後大宮IC)	60.0					
4 丹後産コシヒカリの食味ランキング	—	—				
5 農商工連携取組支援件数	40.0					
6 ブランド水産物の販売額(丹後とり貝、丹後ぐじ 中丹地域を含む)	175.3					
7 新たな中核的農家の育成数	25.0					
8 漁業における新規就業者数(中丹地域を含む)	250.0					
9 中小企業による経営革新等の取組支援件数	25.0					
10 経営問題等に係るサポート件数	40.0					
11 「丹後・知恵のものづくりパーク」における技術相談や人材育成を通じた企業支援件数	83.2					
12 丹後地域へのU・Iターン就業者数	305.9					
13 山陰海岸ジオパークの「世界ジオパークネットワーク」再認定	—	—				
14 海岸松林の保全・整備面積	33.3					
15 土砂災害防止法による土砂災害警戒区域等の指定箇所割合	100.0					
16 新たな津波浸水区域を踏まえた市町防災計画の見直し支援対象数	100					
17 がん検診を受診する人の割合(胃がん)	—	—				
18 がん検診を受診する人の割合(肺がん)	—	—				
19 がん検診を受診する人の割合(大腸がん)	—	—				
20 がん検診を受診する人の割合(子宮がん)	—	—				
21 がん検診を受診する人の割合(乳がん)	—	—				
22 ゲートキーパー養成数	98.9					
23 認知症サポーター養成数	252.0					
24 地域力再生交付金や協働コーディネーターとの連携などによる地域力再生活動に取り組む団体数	91.7					
25 京都丹後鉄道利用人数	7.1					

※ 基準値からの増減を目標とする指標等進捗率が表せない指標については、進捗率欄及び進捗率グラフ欄は「—」としている。

(4) 前年度の課題に対する対応状況

ベンチマークレポート [2015年10月] の「今後の課題」について、平成27年度2月補正予算及び28年度当初予算で計上した主な事業は次のとおり

丹後地域振興計画

今後の課題	主な事業等
(1) 丹後地域の活性化を牽引する観光振興	
<p>☆豊富な観光資源や丹後地域ブランドを活用した体験プログラムの開発</p> <p>☆点在している観光資源を鉄道やバス、船等で周遊するシステムを造成</p> <p>☆上記により、経済波及効果の大きい滞在交流型の観光地域づくりを推進して、一人当たりの観光消費額を増やしていくことが必要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・丹後半島ブランド価値発掘・交流促進事業 ・丹後グルメフェスティバル開催事業 ・丹後・食の王国魅力発信事業 ・山陰海岸ジオパーク気運醸成事業
(2) ものづくり産業等地域産業の振興	
<p>☆「丹後・知恵のものづくりパーク」での実績や経験の蓄積、様々な設備、ネットワーク等を最大限に活用した技術支援</p> <p>☆丹後地域に戻りたい、住みたいと思う若者等に対して、積極的に地域情報や企業情報等を発信することにより、U・Iターン等を促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「丹後ものづくり企業」魅力発信事業 ・丹後 着物で行き交うまちづくり事業 ・丹後半島ブランド価値発掘・交流促進事業
(3) 府民生活の安心・安全の確保	
<p>☆津波や雪害などに対処するため、住民の総力を結集した取組をまちづくりの段階から進め、ソフト・ハード両面から地域の安心・安全を確保するとともに、年齢や障害にかかわらず、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、医療・介護・福祉を更に充実</p> <p>☆未来を担う子どもたちに丹後の自然・歴史・文化を学習・体験する機会等を提供することで、ふるさとへの愛着を高め、地元定着者を増やすしくみづくりが必要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害に強い丹後の人づくり事業 ・「健康長寿の丹後」プロジェクト事業 ・TOMORROW丹後プロジェクト推進事業

京都府が京都市域において展開する主要施策・事業に係る 2015 年度の実施状況をまとめる。

【府民安心の再構築】

(1) 子育て・子育ての安心

- 京都市や警察、学校、家庭裁判所等と連携し、非行等の問題を抱える少年をサポートする「立ち直り支援チーム（ユース・アシスト）」により少年一人ひとりに適した支援プログラムを実施
- 婚活支援団体や婚活マスター等と連携し、結婚を希望する独身者の婚活を応援する、きょうと婚活応援センターを開設

(2) 学びの安心

- 一人ひとりの児童生徒に確かな学力を定着させるため、小学校 1、2 年生で 35 人学級を実施するなど京都式少人数教育を実施
- 京都大学をはじめとする大学等と連携し、大学教授等による出前学習、数学グランプリ、物理グランプリ、教員養成サポートセミナー等を実施
- 府立清明高等学校の開校

(3) 働きの安心

- 京都ジョブパーク内に障害のある方に適した仕事の創出や定着支援に関する個別相談等企業を総合的に支援する京都障害者雇用企業サポートセンターを設置。また、京都テルサ内に障害者の就業面と生活面の支援を一体的に行い、雇用の促進や職業の安定を図る障害者就業・生活支援センターを設置（京都市内 2 箇所目）
- 京都ジョブパーク内に国と府が一体となって学生等の就職支援をワンストップで行う学生就職センターを開設
- 京都テルサ内のワーク・ライフ・バランスセンターを核として、中小企業の取組を支援

(4) 医療・福祉の安心

- 府立医科大学にロボットリハビリテーションセンターを開設
- 最先端陽子線がん治療に係る人材の育成（府立医科大学）
- 府立医科大学附属病院と地域の医療機関、かかりつけ医の連携を強化する仕組みの構築

(5) 長寿の安心

- 京都府総合社会福祉会館に介護・福祉職への求職希望者の相談から就労支援、就職後の研修や定着支援までをワンストップで行う京都介護・福祉人材総合支援センターを開設
- 「京都地域包括ケア推進機構」を構成する各専門分野の団体間の連携・協働を促進し、市町村等における地域包括ケアの取組を支援

(6) 暮らしの安心

- 南警察署の移転建替工事の竣工
- 下京警察署塩小路交番、山科警察署柳辻交番、東山署松原交番等を平安なでしこ交番に指定
- 府民協働防犯ステーションと連携した高齢者等の消費者被害の防止活動の実施
- 府立学校の耐震補強工事等を実施（洛東高校ほか）、鴨沂高校校舎等の整備
- 鴨川の治水対策として大規模水害対策等の検討に着手
- 治水対策の推進（天神川上流）土砂災害対策工事（花尻川、北川等）の実施

【地域共生の実現】

(1) 人権尊重

- 国、人権擁護委員連合会、NPO法人等と連携・協働し、「京都ヒューマンフェスタ 2015」（京都テルサ）を開催

(2) 地域力再生

- 府庁内の「ソーシャル・ビジネスセンター」において、ビジネス的手法により地域課題の解決を図る地域力ビジネス（京都式ソーシャル・ビジネス）を支援
- 府民公募型整備事業を実施（鴨川、桂川、鴨川公園ほか）
- 京都府地域力再生プロジェクト支援事業を実施
- 府庁NPOパートナーシップセンターにおいて、NPOと行政、NPO相互の協働・連携を支援

(3) 新たなコミュニティづくり

- 商店街創生センターを開設し、厳しい環境下にある商店街等にきめ細やかな支援を実施
- コミュニティの活動拠点となる既設府営住宅集会所の改修等（吉田近衛団地、西七条団地）
- 新堀川魅力創造事業において、沿道空間や建物外観に関するデザイン調整を実施し、再生計画に反映

(4) 男女共同参画

- 京都テルサ内の京都ジョブパークマザーズジョブカフェにおいて、女性の子育てと就業をワンストップで支援
- 京都性暴力被害者ワンストップ相談支援センター（京都SARA）の開設

(5) ふるさと定住

- 里の仕事人による伴走支援等地域の課題解決の取組を共に育む『命の里』事業により実施（左京区北部地区ほか）
- 京都市内に農山村地域への移住相談窓口を設置
- 「特定鳥獣保護管理計画-ツキノワグマ-(第3期)」に基づきツキノワグマ対策を実施

【京都力の発揮】

(1) 人づくり

- 京都高等技術専門校（伏見区）や「京都・新卒就職応援セミナー」の開催等により府内企業への就業者を育成・確保
- 現役学生のためのインターンシップ情報総合サイト「京都インターンシップナビ」の運用の開始
- 次世代のコンテンツ産業や映画コンテンツ産業に係る人材育成、ものづくり産業に従事・創業する若手職人の育成

(2) 環境の「みやこ」

- 国立京都国際会館において「KYOTO地球環境の殿堂」を推進（新たな殿堂入り3名）
- 府と京都市による動物愛護事業の拠点「京都動物愛護センター」のグランドオープン
- 「千年の都・鴨川清流プラン」に基づき、出水等により顕著に堆積した箇所の中州の除去、納涼床の許可審査基準への適合の指導、鴨川ギャラリー事業の実施
- 鴨川公園葵地区の整備に着手

(3) 文化創造

- 京都学・歴彩館建設工事の推進、設備整備の着手
- 府立大学のキャンパス整備の検討開始
- 府立植物園の魅力向上に向けた基盤整備（ボタニカルオープンウィンドウ、北泉門の整備）
- 「第4回全国高校生伝統文化フェスティバル」を開催（京都コンサートホール）
- 琳派400年記念事業の開催（京都文化博物館、京都府立植物園ほか）

(4) 産業革新・中小企業育成

- 府と京都市が協調して中小企業融資制度の利用促進を図り、中小企業の経営改善を支援
- 京都経済センター（仮称）の整備の着手
- 西陣織、京友禅等、伝統産業の分業体制の維持・再構築の支援
- 京都縦貫自動車道的全線開通等を契機に、京都市西部地域等の「西の京都」エリアの魅力を活かした「新しい京の旅」を創造
- 京都総合観光案内所の観光案内のほか、観光情報発信等、京都花灯路、京の七夕等の観光事業を府市協調で運営
- 「京都倶楽部」を世界の主要都市に創設
- 旬の京都府産農林水産物を生産者から直接購入できる「京もの祭～ええもん市～」を京都市内で初開催（パルスプラザ）、伝統工芸品を購入できる「京のええもん販売会」を初開催（西陣織会館）
- 丹波広域基幹林道（深見大布施線）を活用した「森の京都」エクスカージョンを実施

(5) 交流連帯

- 鉄道駅の利便性・安全性の向上整備（深草駅、西院駅）
- JR奈良線複線化整備の京都駅設備改良工事の推進

